

第2章

交流広場間のネットワークの推進

1 地域コミュニティ・アワード2010の実施概要

県民交流広場の実施地域が531小学校区エリア、640地区となり、県内全校区の76%となる中、広場活動が5年の助成期間終了後も、継続してさらに充実して実施されるよう、全县レベルでの交流の場として、「地域コミュニティ・アワード2010」を平成22年11月7日（日）に県立嬉野台生涯教育センター（加東市）において実施し、約1,800人が訪れた。当日は、地域の代表によるブース展示をはじめ、広場同士の交流を図る青空フォーラム、さらにモデル的活動を展開している広場のコミュニティ賞を選出。

“地域コミュニティフェスティバル”として北播磨地域の「北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会」や県立嬉野台生涯教育センターをアピールする「うれしの秋の交流フェスタ」と共同開催した。

◇ 各県民局の地域代表によるブース展示

各県民局の代表2地区、合計20地区の広場実施地域をはじめ地域コミュニティで活動している団体やグループなどが58のブースに分かれて出展。紙芝居やシャボン玉などの実演、子育て支援や高齢者支援のためのノウハウの紹介など、広場等でのユニークな取組やモデル的な活動について、工夫を凝らしたパネル展示により披露した。継続した活動に向けて、それぞれの広場が、交流し、学習し合う良い機会となった。

【屋内でのブース展示と交流風景】



◇ 広場同士の交流を図る青空フォーラム

県民交流広場事業の取組のノウハウや課題を共有し、意見交換する青空フォーラムを実施した。

コミュニティ応援隊の小嶋明、柏木登起両氏をコーディネーターに迎え、都市部から中山間地域まで県内4地域の広場の代表者からその特性を活かした人材育成と財源確保のあり方について発表いただき、参加者との意見交換を行った。多くの広場に共通するテーマについて熱心な議論が行われ、地域性を活かした取組の必要性があらためて確認された。

【青空フォーラムと屋外のブース展示】



◇ モデル的な活動をしている広場の顕彰

出展した広場の中から、今後のモデルとなる活動や特徴的な取組を展開している5つの広場を「県民交流広場コミュニティ賞」として顕彰した。選考委員が各展示ブースをまわり、展示内容や出展者との意見交換をもとに、一般来場者の投票結果も加味して選定、金澤副知事より部門賞・奨励賞をお渡しした。

野崎隆一選考委員長からは、「地域性があり、ユニークな活動が多くあった。それぞれの活動スピードは違うが、じっくり時間をかけ、子どもたちや若者にバトンタッチできるように県民交流広場活動を育ててほしい」との講評があった。

【表彰状の贈呈】



《 県民交流広場コミュニティ賞 部門賞 》 (各賞の説明は46ページに記載)

- | | | |
|-----------|--------------|-------------------|
| ① いきいき広場賞 | : 尼崎市尾浜地区 | 尾浜地区県民交流広場地域推進委員会 |
| ② なるほど広場賞 | : 南あわじ市伊加利地区 | 伊加利国際交流会 |
| ③ みんなで広場賞 | : 明石市松が丘地区 | 松が丘地区コミュニティ推進委員会 |
| ④ すくすく広場賞 | : 相生市相生地区 | 特定非営利活動法人 あいあいひろば |
| ⑤ しっかり広場賞 | : 篠山市城南地区 | 城南まちづくり協議会 |

〔西尾代表：あいさつ〕

ただいまご紹介いただきました、県民交流広場の全県連絡協議会の代表世話人の西尾でございます。

昨年の秋、第1回の「地域コミュニティ・アワード」を開催してから、はや1年が経過し、再び、この嬉野台生涯教育センターで、県内各地の皆さんと、いろいろな交流を行える機会を得ることができました。大変楽しみにしています。



私たちの広場も、昨年のアワードに参加し、県内各地の皆さんと交流することで、その後の継続的な活動に向けて、大きなエネルギーをいただきました。コミュニティレストランの運営をはじめとして、毎日の活動を元気いっぱいに行っています。アワードへの参加が、活動の励みになり、本当によかったですと思っています。

本日は、「地域コミュニティルネッサンス」をテーマに、「地域コミュニティ・アワード2010」「北はりま絆プロジェクト交流広場大会」「うれしの秋の交流フェスタ」の3つの行事を合同で、「地域コミュニティフェスティバル」として盛大に開催することになりました。

これも県民交流広場全県連絡協議会や県内各地で活動されている広場の皆さんをはじめ、県民局、市町の皆さん、特に北播磨県民局、嬉野台生涯教育センターのご尽力の賜であると思っております。

この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

このように県内各地の広場の皆さんが、活動の成果やノウハウをはじめ、いろいろな課題を持ち寄って、話しあうことは、さらに広場が元気になり、継続的な運営と活動につながっていくための、大きな

励みになります。

また、嬉野台で紙芝居や木工細工などに取組まれている各団体の方々やソーラーカーや燃料電池列車などに取り組まれている北播磨の高校生の方々といっしょになって、これらからの地域コミュニティづくりを考えることは有意義な機会だと感じています。

本日のフェスティバルが、お集まりの皆さんの交流の場として、さらに、お互いに情報共有の場として、大きな成果となりますよう、祈念しまして、開会宣言といたします。ありがとうございました。

〔高井室長：あいさつ〕

みなさん、おはようございます。今日は、3つのイベントの共催ですが、代表して、私から地域コミュニティ・アワードの主催者という立場でご挨拶を申し上げます。

今日は、県下各地から、お越しいただきました。但馬の久斗山地区の皆さんは、5時半に出られたと伺いました。早朝よりお集まりいただき、本当にありがとうございます。



また、ただいま、西尾代表から、力強いごあいさつをいただきました。県下各地の交流広場の活発な活動ぶりを伺わせるご挨拶でございました。

交流広場をモデルとしてやりだしたのが7年前、本格実施が5年前からであります。今年度が、採択の最終の年となります。これまで、この年の上期までの申請分で640地区、小学校区にしますと県下の76%をカバーするまでになりました。亀のような歩みでしたけれど、ようやくここまでこれられました。ただ、まだまだ、もっと多くの地区に参加していただきたいという思いから、いつもは、例年1度だけの募集ですけれども、今年に限って下期の追加の募

集をしたいと思っています。1地区でも多くの皆様に参加いただければと思っています。

そんな状態の中での、今日のコミュニティ・アワードですが、代表のご挨拶にもありましたように、相互の交流と連携を通じて、もっと、広場の活動を活発にしたいという思いからやるものです。特に早い段階で始めていただいたところは、運営費の助成が5年間で終わりますが、その後もできるだけ活動を継続していただきたい。できれば、今まで以上に活発にしていいただきたい。そのためには交流が不可欠だろうという思いで開催するものでございます。中身としては、よりすぐりの団体に、ブースで展示をしていただき、午後には、それぞれの情報交換のために青空フォーラムをやります。よりすぐりのブースの中から特にモデル的な活動なさっているところを顕彰する意味で、コミュニティ賞の選考なども行います。

そんな中で、皆さんが交流と情報共有をしていただいて、今後の県下各地での広場の活動の活性化につながればいいなと思っています。同じ趣旨で、今年は、県下各地、県民局でも地域単位の交流の活動をやっていますので、そちらの方もご活用いただければと思います。

今日は、アワードだけではなく、北播磨地域の皆さんの交流のイベント、ここ、嬉野台生涯教育センターに集う皆様の交流のイベント。この3つを合わせて行います。お手元のパンフレットにもありますが、さまざまな出し物や盛り沢山の企画もありますので、秋の一日、どうか楽しんでいただきたいと思います。

最後になりましたが、開催にご尽力をいただいた皆様方に感謝を申し上げますとともに、お集まりの皆様が益々活発にご活動いただき、地域コミュニティが益々盛んになること願いたしまして、私からのご挨拶にさせていただきます。

〔野崎委員長：あいさつ〕

どうも皆さん、こんにちは。

選考といいましても、各県民局から、よりすぐりの地区が参加いただいていますので、私も、選考というのなかなかむずかしいと思っています。アワードは、別に活動に優劣をつけることが目的ではご

ざいませんで、審査委員それぞれが、各ブースをみせていただいて、いろいろお話をお聞きかせいただくことに目的をおきたいと思っています。

そんな中で、5つの賞を、審査員の方やみなさんの投票によって選ばせていただくことになります。

今日の目的は、アワードでどこが優秀かを定めることではなくて、それぞれの活動の知恵であるとかアイデアであるとか、他の地区の活動を見ながら交流していただくことが目的であると思っています。



これから、私と6人の審査委員が皆さんのブースをご訪問して、いろいろお話を聞きたいと思っていますので、よろしくお願ひします。それを楽しみにしています。

- ◆ 日時 平成22年11月7日(日) 13:00~14:00
- ◆ 場所 嬉野台生涯教育センター 中庭
- ◆ 出席者 コーディネーター：小嶋明氏、柏木登起氏
 パネラー ：西神南地区(神戸市)坂本 津留代 氏
 ：東山台地区(西宮市)福田 勝 氏
 ：松が丘地区(明石市)小島 彰夫 氏
 ：伊加利地区(南あわじ市)西久保 文代 氏

〔小嶋〕

みなさんこんにちは。コミュニティ応援隊の小嶋です。

〔柏木〕

みなさんこんにちは。NPO 法人シーズ加古川の柏木です。よろしくお願いいたします。

〔小嶋〕

この青空フォーラムは昨年に続き、2回目の開催です。昨年はもう少し多岐にわたったテーマについてやりとりをしておりますが、今年は去年よりテーマを絞って実施したいと思います。実際に現場で取り組んでおられる人の話をそれぞれにさせていただいて、会場の皆さんの意見もいただきながら展開していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、パネリストのみなさまにお願いしたいことは、50分という時間の中で、お一人お一人の時間になると数分しか時間がありません。コンパクトにこれだけ言いたいということを心がけていただきたいと思います。

それではパネリストがどういう広場事業をされているのか、どういう人かということがありますので、自己紹介を3分以内でしていただくようお願いいたします。

まず神戸市の西神南の坂本さんの方からお願いいたします。



〔坂本〕

私は神戸市西区というところから参りました。平成5年にまち開きがされて、私たちもその頃は35倍の倍率で入ったのですが、団体も地域も組織も何もない中で平成5年から18年間まちづくりをしてきて、3年前に県民交流広場事業を取らせていただきました。

まず、私たちの地域について知っていただけたらと思います。明石にほとんど近い場所ですが、人口は2万7千人、小学校は2つ1500人、中学校は1200人を超えました。1800人まで小学生がいくであろうという街の中で、いろいろ活動させていただいております。

阪神・淡路大震災で沢山の仮設住宅が建ち、復興住宅が1400戸建ちました。その中で内陸部最大規模の毒蜘蛛の発生、テレクラ、色んな事が街に押し寄せてきました。組織も無い中でみんなが一生懸命同じ方向に向かってやれば出来るということを実践してきた街です。



テレクラの反対運動があった時、知事が「大きな一つの連合会長のハンコより、あなた方の町の人はどう思うかを示しなさい」、と言われて、それが今もまちづくりの基本になっているように思います。10日間で3万名を超える署名が集まりました。みんな一生懸命集めて、それで条例が改正されて、テレクラが撤去ということになりました。やれば出来る。地域の中に神社仏閣が無くても、人の心が一つになって、同じ方向を向いて、しっかりと街には要りませんと大きな声で言えばやれるものだという事を学びました。

私たちは福祉センターの中で「福祉銀行」というのをしています。福祉センターは高齢者の避難場所とな

っておりますので、去年から福祉銀行の中で、福祉避難訓練を実施して、障害者の方、高齢者の方が安心して、安全に暮らせるための交流事業の活動を続けさせて頂いております。

地域の中で今は色々な目標を持ってやっています。たとえば連合自治会は重点目標を決めます。例えば「門灯点灯100%」。これも1軒1軒説明していき、97%まで点灯率を上げました。また他の団体も全て目標を掲げて、それを1年間達成出来たかを見つめながら地域活動を進めていっております。また後で、交流広場事業の福祉銀行、福祉避難訓練、障害者高齢者の方々のお預かり事業を少しお話し出来たらなと思います。ありがとうございました。

〔小嶋〕

坂本さんありがとうございました。きっちり3分でさすがです。正面にタイムキーパーの柏木さんが時間表示を出しておりますので、うまく行くと思います。次は中国道の名塩サービスエリアから少し宝塚の方に行きますと、左側に団地が広がっております。その西宮東山台の福田さん、お願いいたします。

〔福田〕

西宮市東山台の福田でございます。私たちの地域は平成18年から街ぐるみで県民交流広場事業に取り組んでおります。全ての自治会、社会福祉協議会、スポーツクラブ21、青愛協、老人会、全ての地域団体が集まって、その中にまちづくり推進委員会を設置しまして、取り組んでおります。ですからちょっと異質な要素を持っているかと思えます。

現在まちづくり推進委員会が果たしております役割が3つございます。1つは街の事務局、調整役という役割を果たしております。印刷、発行そういったものは全部まちのホールで実行しております。そのホールを管理する役割が1点目です。



それから街全体の情報が集まるものとして、毎月1回地域広報紙を発行しております。これが2点目の役割です。本来ですと我々の場合は独自の事業はあえて必要としないんですけれども、県民交流広場事業にち

なみまして、2つ事業部会を設置して取り組んでおります。1つはコミュニティカフェ、「カフェ・ナシオン」です。もう1つは、これはちょっと高齢者向けなんですけれども、毎月1回野菜市を「ふれあい朝市」と称しまして実施しております。

カフェの方は地域の女性の皆さんにボランティアで運営していただいております、土日祝日はお子さんがおいでになりますので無理ですが、火、水、木、金の週4日、月間で18回〜20回程度やっております。

また、ふれあい朝市の方は、近隣の農家の皆さんにお野菜を運んでいただいたり、県が取り組んでおります小規模集落元気大作戦と結びつきまして、県中部、北部の小規模集落の皆さんにお米やお野菜を運んでいただいて、地域で販売しております。何しろ、街開きからわずか17年しか経っていない新興の住宅地ですから、交流、交流、交流ということで、地域住民の交流に全力を傾けております。以上でございます。

〔小嶋〕

ありがとうございます。10秒前にきっちり終わっていただきました。ありがとうございました。

続いては第2神明の大蔵谷インターのすぐ近くで、神戸市の垂水区と接している明石の松が丘の小島さん、お願いします。

〔小島〕

ご紹介いただきました松が丘地区コミュニティ推進協議会の小島でございます。今ご紹介がありましたとおり、私たちの街は千里ニュータウンに次ぐ2番目の団地、明舞団地の一角にある松が丘という街でございます。街が出来て40年です。当然のことながら街が疲弊し、少子高齢化が進んでいるという街でございます。

県民交流広場事業を受けて、街をいかに元気にしていくか、人と人のふれあいをいかに図っていくかというのが大きな課題でございました。私どもの街では8年前に15カ月、1500人で街調べをしました。

そのときにいろいろな問題が出たんですけれども、1つが今申しましたような街の活性化と、もう1つが地域活動の基盤になる人と人のふれあいをいかに図っていくかが大きな課題でございました。

県民交流広場事業ではその2点についていかに深めていくか、高めていくかが課題でございます。従いまして、既存のウォークラリーであるとか、グラウンドゴルフであるとかいう行事を充実させていくということを毎回やっているわけでございますが、その中でいかに人と人のふれあいを深めていくかということに取り組んでいます。

県民交流広場事業はご存じの通り 1,300 万円頂いているわけですが、私どもの街は景観上、防犯上非常に問題であった雑木林がございましたので、1,400 平方メートルほどの雑木林を 800 万円かけて整備いたしました。そこで花作り、野菜作りを進めて参っております。今日もそこで育てた花とか野菜を持ってきて取組を発表しておりますので、是非ご覧いただけたらと思います。

〔小嶋〕

続いては淡路島の地図を見ていただきますと、一番南端にあるいわゆる鳴門海峡、そこから地図で左側にちょっと海岸沿いに戻っていただいたところにある伊加利地区の西久保さん、お願いいたします。

〔西久保〕

失礼します。私たちは伊加利国際交流会って言うんですけれども、平成 21 年度で広場事業が終わりました。5 年間のまとめをここで述べたいと思います。坂本さんにお聞きしたこととは正反対の私たち淡路島伊加利地区は、淡路島で 2 番目に小さな小学校で、過疎、少子化が大変進んだ土地柄です。

運動会と言えば、午前中は小学生、午後からは一般地区の方との運動会で盛り上がり欠けた運動会でした。平成 4 年から留学生を迎えて運動会をしてみてもとの提案で、大阪 YMCA で日本語を学んでいる留学生と交流を行っています。平成 17 年に伊加利小学校が閉校となりました。それでも田舎の運動会を続けて、手作り運動会と学生たちの強い要望で日本の家庭生活を味わってみたいとホームステイも行われました。長年の実績が評価され、インターナショナル田舎の運動会という題目で県民交流広場事業のモデル事業を受けることになりました。

活動面では年 2 回大きな事業を行っています。「田舎の運動会」と「言葉で遊ぼう」。これは田舎の運動会を意義深いものにするために、1 泊 2 日で留学生を迎え、言葉の勉強をします。



ことば遊びの様子

1 日目には大人の部、2 日目は小学生の部に分けて

の事業です。留学生が考えてきたカリキュラムでゲームをしながら言葉の勉強をします。昨年は正月の遊びで手作りカルタ、モンゴルの羊の骨の占いと大変楽しく過ごしたひとときを思い出します。

参加してくれる児童たちも活発で素直な子が多く、すぐに留学生たちと仲良くなり、最初は後ずさりしていた子どもたちも、会を重ねるごとに「お姉さん」「お兄さん」といって膝の上で甘える様子などが見られるようになりました。これも 5 年間続けてきた小さな小さな一歩が報われてきたことかと思ひ、安堵しております。しかし 5 年経って事業が終わってしまい、「これからの活動費どうしようかな」というのが、私たちが抱えている大きな課題です。皆様方の何かいい知恵をいただけましたら、ありがたいと思います。

〔小嶋〕

ありがとうございます。4 人の方それぞれ時間内に自己紹介いただきました。

県民交流広場というのは小学校区を単位にしておりますが、その数の分だけ全部、条件や背景が違いますので、全て同じ基準では当てはめられません。先ほどのお三方の新しい新興住宅、明舞団地の一角にある大規模なコミュニティと伊加利地区のように小学校も廃校になっている地域、これを同じように、同じ基準では考えにくいものがあります。

しかしそこに人が暮らしている限りはコミュニティが形成されていて、共通の課題も見えてきます。すでに県民交流広場事業に取り組み始めて 5 年を過ぎたところ、途中のところもありますけれども、今後この組織をどのように発展させていったらよいか、ということについて、会場の皆様もそのような課題を抱えているところもあるかと思ひます。まずパネリストの方々からその話を出してもらって、会場からも自己紹介も含めて質問とか、「うちはこうやで」という意見をいただけたら嬉しいと思ひます。

さきほど福田さんの方から、「うちは特異な例やで」と言われたと思ひますが、何が特異なのか、もう少し言ってもらって、今後どうなるのかについてお願いします。

〔福田〕

東山台の場合は、平成 7 年の阪神・淡路大震災が起こるまでは地域組織さえなかったんですけれども、震災をきっかけにして自治会が出来まして、社会福祉協議会とかスポーツクラブの前身とかが成立しました。震災の影響がございました。

当時はボランティア元年という言葉が流行りまして、都市中間層だけが住んでおります完全な住宅地なんですけれども、ボランティアブームに乗りまして、

女性パワーが爆発しまして、地域活動は平成8年、9年あたりから猛烈な勢いで盛んになりました。自治会も整い、社会福祉協議会も非常に活発に、スポーツクラブも活発にとそれぞれの地域団体が活力を持ち始めたところに県民交流広場事業がございまして、地域の諸団体が活力を持っているその中で、より充実した地域活動を形成するための拠点作りということで、県民交流広場事業に参加させていただきました。

だからある意味でまちづくり推進委員会は必ずしも独自事業に取り組まなくても、それぞれの団体さんの事務局として、あるいは調整役として活動すれば事が足りたと言うところがおそらく他の地域さんとちょっと違うのではないかな、という認識でございます。

〔小嶋〕

ありがとうございました。福田さんの意見についてはまた後ほど会場からいただきます。

引き続きまして明石の小島さん、地域づくりは、広場もそうなのですが、始まる時と途中、それから5年経って何が変わったのか、形の見えること、例えば地域の方が「広場事業に取り組んでこれが変わったんだな」と実感出来ることが非常に大事なんですけれども、まさに明石の小島さんのところは変わったと思うのですが、先ほどの話をもう少しお願いします。

〔小島〕

先ほど申しましたように、私どもは地域内に景観上、防犯上非常に大きな問題の雑木林がございまして、これを何とかしたいということで、前々から課題になっていました。そこに、たまたまこの県民交流広場事業がございましたので、そこを800万円かけて整地しまして、住民の交流を図れるよう整備しました。



県民交流広場事業の助成金をかけて整地

そこで花の会の会員が活動しているわけですが、花の会、花作りといいますと、綺麗なイメージを持つわけですが、実際にやることは水やりであったり、畑を耕したりする事でございます。現在会員が50名弱で、お互いに交流を深めながら、野菜作り花作りを苦勞しながら楽しんでいるところでございます。

またそういうことをしていることを住民に知って

いただくために、広報活動はもちろんのこと、年に2回くらいの即売会をしまして、野菜、花の販売をいたしております。それはとりもなおさず、我々の管理運営費に活かされているということでございます。

〔小嶋〕

ありがとうございます。今の説明はブース、皆さんから見て左側にありますけれども、そこに写真が展示されております。

先ほど言われましたように、夏の朝夕の水やり。なかなかあれだけの面積をしようと思うと、毎日ですから大変なことだと思います。それが継続されている。これにつきましては、お二人の話、組織とか今後どうなるのかという話がありましたので、マイクを柏木さんに渡しまして、5分ほどしかありませんが会場とやりとりをお願いしたいと思います。

〔柏木〕

はい。まずは組織づくりということで、いろいろパネリストの方々の特徴的なところがあったと思いますが、次に会場の方からお聞きしたいと思います。我こそはという方、うちはこんな組織作り、人材育成の取り組みをしてるねん、というところはおありでしょうか。何か発表したいなあ、というところは、いかがでしょうか。

今日私も各ブースを見させていただいて、それぞれ地域ごとの課題をうまく地域の色んなアイデアを取り入れながらやっておられるなあと思いました。そのような中、播磨地域は文化活動に力を入れておられます。文化活動というのは人が集まりやすい、きっかけになりやすいのではないかな、と思いますが、播磨町の田辺さんいかがでしょうか。

〔播磨地区・田辺〕

播磨町から来ました田辺です。私たちのところはサークルがありまして、サークル20団体が広場協議会にぶら下がっています。その代表の方に理事になってもらって、団体個々の色んな活動なりを、我々がフォローアップして、また逆に広場協議会に対してフォローアップし続けるという形です。

やっている内容は文化の向上と地域の活性化、青少年の育成をやっております。その中の広場寄席では、桂米朝一門に2月と9月年2回必ず来てもらって寄席をやっております。その中で笑いを通じて地域の方とのコミュニケーションが生まれたらいいなということでやっております。

もう一つは、コンサート活動をやっておりまして、文化の向上を図っております。

〔柏木〕

ありがとうございました。文化活動を通して色んな人の巻き込み方が参考になるのではないかなと思います。

もう一人。新温泉町の久斗山地区の方。ここは組合を立ち上げた新しい形。そこまでされたところはなかなか無いのではないかな、と思います。その辺りをお話しただけですでしょうか。

〔久斗山地区・中村〕

私の地域は、平成16年度に小学校が閉校になりました。うちの集落だと、小学校が2集落の校区になりましたので、現在は小学生10名なんですけれども、学校経営が出来なくなりまして、地域の小学校が無くなりました。

このままでは、地域が暗くなり、ますます沈むということで、地域の方々が小学校を利用して、何か出来ないかということで、交流施設と地域の農産物の加工施設を作ろうと立ち上がりました。その中で農産物の加工組合を地域の有志の方々に立ち上げて欲しいということで、説明会などをもって、有志で立ち上げました。

全戸が組合員ということになっておりますが、実質は13名で活躍しています。残りの方々は組合に協力をしていただくということで、組織経営をしております。農産加工組合で生産する。製品を作って販売するというコミュニティビジネスを展開しておりますので、今後の活動費をまかなえるのではないかなと思っております。

活動費も参加者ごとに参加費をいただいて、体験教室とか色んなものをしてしております。皆様の押し上げで組合運営をしております。16年のモデルで7年経過をしております。以上でございます。

〔小嶋〕

ありがとうございました。時間の関係で、本当は会場の皆さんからもっともっと「うちはこんなやで」と言ってもらえたら良いのですが、そうも行きませんので、次に移ります。

その前にもう一方だけ、私の方から指名させていただきましたが、先ほどの4人の話の中で、女の人が前面に出たりして、男が来ないのや、という意見がありました。宝塚の小浜で「女ばかりや」と先ほどおっしゃっておられましたけど、どないですか、男の人にごうやったら来ていただけますか。

〔小浜地区・藤本〕

宝塚から来ました小浜小学校区まちづくり協議会で。皆さんの話を聞いていると、一生懸命趣向を凝ら

していますが、うちも平成8年に出来たのですが、県民交流広場事業を平成18年に受けて、助成ができました。

まちづくりは人づくりではないかというところで、西宮の方がおっしゃったみたいに、交流というのを大切にするというのでやりはじめました。自治会がなければ地域活動は出来ないということで、自治会さんが中心となって我々地域を支えていただくという風になっています。



私をはじめとしてだんだん高齢になってくる。次の方に世を渡したいのですが次が居ない。荷物を持ってもらうのに若い人が欲しいというのが大きな悩みです。どういう風にしたら人材育成が出来るのだろうか。男の方はおうちにおられるのですが、なかなか地域に来ていただけない。その男の人たちを引っ張るきっかけづくりは何がいいのか色々考えるのですが、やはり出ていただけない。それが悩みです。

活動には男の人、若い人たちの力がやはり沢山要ると実感していますが、どなたか、「こんなことしたらようけ出てきはったで」ということがあればご指導いただきたいです。

〔小嶋〕

突然振ってすみません。ありがとうございました。

先ほど会場からも課題をいただきまして、人材、男性の参画とかありましたけれども、それと財源も含めて、一杯一杯引き出しがおありですが、坂本さんから、ほんのわずかな引き出しですみませんけれども、お願いいたします。

〔坂本〕

先ほど若い男の方の力とか、若くなくても男性の力とか大事な、と言われたのですが、本当に難しいと思います。

うちは大学生の方がたくさん入っています。最初大学生が入った時に「今日は授業で急に行かれへん」と言ったトラブルや、色んなことがありました。言わないとなかなか動いてもらえない、ぼーっと立っている、何していいかわからへん、「ちょっとこれお願いしま

す」と言ったら、「なんですか?」と。本当にびっくりするような、今の若い人やなあと思うことがあったのですが、最初から一緒に会議をして、その人たちの時間にあわせて、ずっと取り組んできて、今で5~6年経つのですが、本当にすごい力になっていて、大学と組まないと事業にならないものがうちにはたくさんあります。

もう1つは男性で入ってこられるのですが、会社と地域がまるっきり一緒という方がおられまして、「おーい、お茶」状態で、『おーい、お茶』は伊藤園ですよ。かちゃん、ぼとん、かんと出てくるものはないです。ここでは、お茶は、自分で入れるか、逆に会長が一生懸命働いているのをみたら、『会長、お茶を入れたるか』と言うて下さい」と言うのですが、そうすると、怒ってやめていかれる方もいます。それまでかという風に思っております。

それとお金は一律で助成金というものが下りてきますよね。うちは千人を超える小学生が居て、同じように3万、5万頂いても、割ってみるといくらでしょう。か。それを使うとかえって不平不満、苦情が出ます。じゃあ、お金を使わない。うちの自治会は年間に1世帯150円いただいて、ほとんどそれで事業を行います。

例えば門灯点灯は「あなたも、あなたも、あなたも指1本、スイッチを入れれば地域活動に参画が出来ます。1カ月に400円、コーヒー代1杯で街を明るくすることが出来ます。街を明るくしたことで、中学生が部活の帰り、『明るくなったわ』、『足元見えるわ』、『安全やわ』こんな風に言ってくれた」と広報します。

今まで毒蜘蛛で、テレクラの件で習ったことを決して無駄にせず、みなさんに今あるがままのことをしっかり伝えて、「これならようやってくれてるわ」、「金無いけどよう頑張るとるやん」、「金無いけど自分の体出して頑張るとるやん」とわかってくれる人は必ずこっちを見てくれます。こういう事業もそうですが、参加してくれるだけでも次に繋いでいくことが出来ますので、参加して、見てもらって、聞いてもらって、味わってもらおうことが次につながると思っております。

企業も私たちの街に進出してこられましたら、「一緒にやってください。神社も仏閣もないので、寄付は要りません。ご一緒にやるのは、防犯カメラですか、伊吹の森を歩こうのウォークですか、何がいいですか?お水のご寄付がいただけるなら、水800本お願いします。ありがとうございます」そういう風に巻き込んでいきます。決して私たちにはお金は無いんですが、皆さんと一緒に汗を流させてくださいというお願いを、地域に、企業さんに、小学校に、中学校にさせていただいて、ともに事業をさせていただいております。

【柏木】

坂本さんの熱意に圧倒されたかもしれませんが、色んな方を巻き込んでいく、企業も巻き込んでいく。熱意さえあれば巻き込んでいくことが可能なんです。ね。組合作りをされたりとか、今日の他の話でも、色んな人のアイデアが集まると、新しい発想が生まれ、新しい事業が生まれ、またそこから新しく巻き込んでいく、そんな井吹台の話だったかな、と思います。

【小嶋】

それでは、西久保さん。

【西久保】

すごくうらやましい話で。私たちも淡路島で小さい、小さいところですから、「資金面弱ったなあ、どうしよう」、県の人に頼んでも「あかん、補助金終わりやで」。私らの事業は地元を活性化するために留学生を招いて小学生の子どもたち、大人とのコミュニケーションをしながら地域を活性化しようというのが目的なんですよ。

そうする場合には「淡路にはようけ外国人の人來とるやん」「それはあかんねん。みんな仕事に来てからね。そんな交流とか遊びには協力してくれへんのよ。長いこと付き合うとる大阪のYMCAから来てもうて事業するんやけど、ようさんお金かかってなあ。旅費もかかるし。事業するには学生さんが用意してくれるものに対して、我々も報わなあかんな、と思って一生懸命するけど、やっぱりお金やねん」。

県民局の人にお問い合わせしたら、「補助金終わったらあかんで」「うまくいかへんかなあ」「ほんなら考えたるわ」ということで、いいアイデアいただきまして、今年も国の補助金で「こどもゆめ基金」という子どものためにだけ補助金をくれる事業があるんです。それをいただいて、今年も8月と12月にまた子どもたち、といっても南あわじ市で小学生何人いると思いませんか。明石の方が聞いたらびっくりすると思います。2千人いません。その中で私たちが呼んでくる子どもさんたちは本当に数少ないですが、留学生の方と楽しく毎回交流していただいております。

やっぱり色が変わった人、目の色の違う人を見たりすると、日本人ってどんどん後ずさりしますよね。子どもたちは非常に正直で、最初恥ずかしいな、と思っていた子も2回、3回と留学生のお兄さんと接すると、「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」と触れる様子が見られます。子どもたちが留学生に対して、人間みんな色も顔も違っていいよね、ということがわかってくれただけでよかったね、という事業なんです。でも本当にこの先、どうしたらいいのかな、ということをお教えください。

〔柏木〕

色んな地域の課題もそれぞれの、子どもの多いところもあれば、子どもが少なく、というところもあります。それでは、まず私が振るよりも、皆さんの意見を聞きたいと思います。こういう発言したいな、という広場の方いらっしゃいますか。

〔たつの市新宮地区・芳野〕

大勢で来ていますので、発表しておかないと「代表何しとったんや」と言われそうなんです。

私どもも18年度からスタートしました。私たちも始まった初年度から各戸100円ずつですが、小学校区13自治会、1600戸で16万というお金を集めてきて、それをこの5年間積んできました。この年度の初っぱなに、5年間が終わった後どうするか、それを倍にするということを自治会で決定しまして、次年度から32万のお金が毎年このまちづくり推進事業のために活用出来る、という取り組みで今頑張っております。

〔柏木〕

色んな財源の確保と言うことは非常に難しいんです。けれども、今日見てみると、色んな地域で新しい商品を開発されたりとかもありますし、ちょっと特殊な事例では地域通貨を実施されている尼崎の尾浜地区の団体もあります。地域通貨というやり方も新しい取り組みとしてあるのではないかと思います。いかがでしょう。

〔尼崎市尾浜地区・橋本〕

兵庫県東の玄関口、尼崎から参りました。県民交流広場事業を決定していただいたのが平成18年です。その前に尼崎は都市ですので、地域のコミュニティの崩壊とご存じのように大規模商業施設が周りに建ちまして、商店街が衰退した。

これは本来ならば自治会を中心とした皆様方がなんとか地域の活性化を図ろうと努力をしてくれればいいんですが、そのような機運もなく、どうしたらいいんだろうということで、我々研究会を開いて、地域通貨というものを一つのツールとして、ボランティアの育成と地域の商店街の活性化を図ろうという意気込みでスタートを切ったわけです。

しかし、地域の皆様方が委員会に活動資金として1人100円程度のカンパをしてもらおうという仕組みもなく、そのため、運営資金を独自で確保しなければならなくなり、現在イカ焼きを売ったり、カレンダーを作ったり、今年度は、日本で初めてのアルミの風鈴を作ったり、そういう風にして資金を確保しているようにしています。

尾浜では商店街でも地域通貨を使えるようにしていますので、地域では150万円くらいの流通が現在あります。そこまで行くのが大変だったですけども。やはり辛抱強く、小さいことからコツコツということが大切だと思います。

〔小嶋〕

橋本さん、ありがとうございます。誠に申し訳ありません。時間がありません。せっかく話が盛り上がっておりますが、最後に4人の方にもう一言だけ、3分もないです。1分以内で一言お願いします。

〔坂本〕

私の街の福祉銀行なんですけれども、これは高齢化に向かうということで、街が出来た時から、連合自治会の中に専門部会がいくつかあるのですが、その一つの「オールドタウン勉強会」の中で話してきたことです。千里ニュータウンとか色んな街を見ながら、自分たちもいつか年を取り、この街で暮らしていく中で、「する側からされる側にまわろう」「してもらいだけでなく、する側の経験をしてされる側になろう」というのが福祉銀行なんですけど、時間をためて預託をやっていってます。

今、百名少しいるんですが、年間五千円もらってやっております。この中から色んな事業がうまれていきます。障害のある子どもさんのお預かりであったりとか、クラブであったりとか、駅前で屋根の無い作業所であったりとか。その事業の中から意見が生まれるもの一つ一つを取り上げて、街としてやっていくか、連合自治会で議論しながら専門の担当者を付けて、全部を連合が統括するとか、ふれ協が統括するっていうのではなくて、地域の中にある専門職の人の力を借りながらやっていくとっております。

これからも高齢化に向けて安心して住めるような街にしていきたいという思いで一生懸命頑張っております。

〔小嶋〕

ありがとうございます。続いてお願いします。

〔福田〕

今4人のパネラーが並んでおりましてそのうち3人は新興住宅地の出身で、淡路さんだけが伝統的な集落ということなんですけれども、共通項が無いように見えて、この4つの地域は共通項を持っていると思います。

それは街に多様性がないということです。農業だけあるいは漁業だけ。我々の所には住宅しかありません。したがって我々東山台では平成21年に高齢化率が1

0%を超えました。20歳未満の子どもたちが24%です。今、高齢化のことを考える必要は無いのかもしれませんが、新興住宅地で高齢化率が20%、30%になったら、どうなるのか。これは都市近郊の限界集落です。例えばマーケットが撤退してしまえば買い物難民が続出します。70歳以上になると免許はなかなか持てなくなる。考えますと、我々の地域では、もちろん今も大切なんですが、15年、20年先を見越して、限界集落にならないためのまちづくりに神経を集中するべきではないのか、10年も経てばもう遅いのではないのか、というようなことを考えております。

〔小嶋〕

ありがとうございます。次お願いします。

〔小島〕

地域活動に参加する方を増やすキーポイントの一つに、子どもを増やすというのがあると思います。子どもが参加すれば保護者が付いてくる。こどもが参加してもらうために子どもと仲良くなる取り組みも非常に大切です。

今私たちのブースでやっておりますけれども、子どもと交流するというので、ぶんぶんゴマを作ったり、ストロートンボを飛ばしたりしながら、子どもと仲良くなる活動をしている。子どもと仲良くすると「今度行事においでな」ということができるので、そこに一つポイントがあります。

もうひとつ、これは参考になるかどうかわかりませんが、「男性に地域行事に参加してもらう」。私たちの330戸ほどの地域ですけれども、ゴルフクラブを作りました。何人参加するか気になるところで、当初5~6人かな、と思っておりましたが、40人参加していただいております。ゴルフクラブは自治会活動の一環として取り組んでおりますので、朝の挨拶運動とかにも自主的に参加いただいております。かなり沢山の方が参加してくださる。これも一つのヒントになるかなと思います。好きなこと、したいことを考えていくというのもポイントではないかな、と思います。

〔小嶋〕

ありがとうございます。西久保さんお願いします。

〔西久保〕

何度聞いてもうらやましいな、と思います。みなさんもいずれは淡路のようになりますよ。そのために今日はちょっと発表させていただいたんですが、過疎、少子化はどうしようもない問題です。我々のところは、高齢化率は35%くらいになるんじゃないでしょうか。隣を見ても高齢者の方ばかりで、小学校が無くなって、

幼稚園3、4、5歳をあわせても6名なんですけど、嘘かなと思いますが、本当なんです。

そんな地域ではどうすれば活性化するかというのが一番の問題で、老人会、婦人会、自治会それぞれに活動されていますけれども、やはり何を目的に人を集めようかなというのが一番の課題で、自分の興味のあることは皆さん集まりますけれども、それなりにまあええか、となった場合にだんだん後ずさりです。子どもをターゲットといつてもたかが6名でしょ。小学生を入れても15名。20名なんですよね。どないしょと言いながら毎日が暮れている南あわじ市の伊加利です。



そういつて小学生をどっかから呼んでこようかなと思っても、事業が無くて淡路島は花とミルクとオレンジの島なのですが、今は高齢化が進んで、高齢者、高齢者、高齢者の島になっております。

皆様方で淡路に住みたいと思う方が居ましたら、橋も出来ましたので、通勤時間も2時間かかりませんから、淡路の方に良かったらお住みになりませんか。そうすればちょっとでも解決かな、と思うんですが。ありがとうございます。

〔小嶋〕

ありがとうございます。淡路に定住しようという方がありましたら、すぐ西久保さんの方にお申し出いただきたいと思います。

時間もあっという間に50分過ぎようとしているのですが、最後まとめということになるんですが、まず柏木さんに感想とかまとめたことを2分くらいしかありませんがお願いします。

〔柏木〕

本当に急ピッチで申し訳ありません。20地区20色の広場の活動がありますので、すべてお聞きしたかったのですが、お時間無くて申し訳ありませんでした。

人が集まって色々な発想を議論して考えていくと新たな発想も生まれますし、1人より2人、2人より3人、巻き込む人数が多ければ多いほど色々なアイデ

アが生まれてくると思います。その中で地域の特徴を活かして活動していくそこに尽きるな、と改めて感じました。

自分たちの街を住みよくしていくためには、他の地域の方は何もしてくれません。行政がしてくれるかといえばそうでもなくて、自分たちの住んでいる地域のことを、住んでいる自分たちで住みよくしていくしかありません。自分たちの中で議論するからアイデアも出てくるし、解決策も出てくると思います。

熱意を失わず、自分たちの地域を自分たちの手で変えていけるのが県民交流広場ではないかな、と改めて感じました。



活動の課題は沢山ありだと思ふんですけれども、その課題を解決出来るのは、そこに住んでいるみんなだと思いますので、他の地域のアイデアを盗ませてもらいながら、取り組み活動をして頂ければいいな、と思います。

〔小嶋〕

柏木さん、ありがとうございました。最後に私の方からなんですけど、このフォーラムを運営していくコーディネーターをするために出展ブース見て回りまして、特に、パネリストをお願いしている方ともお話ししながら、始まる前に終わったような感じだったんです。

そこで感じたことは、今までも感じてきたことの再確認なんですけど、広場事業が提案される前から既に地域づくりを始めていて、その制度をうまく導入して、誘導して、それより発展させていけているところ。それから「県からこんな補助メニューあるけどどないや」と提示されて、「そんなおいしい補助メニューがあるんやったら、何か考えてせなあかん」と色々多様だと思ふんですね。

しかし終わろうとしたところで、その補助メニューをもっと続けてくれというのでは次に続かない。むしろ先ほど沢山事例がありましたとおり、自分らは何をするんやと。自分たちの地域は自分たちで考えるという大原則です。行政に頼っていても、一律時期が来たら終わります。その間に何を蓄えてきたのか。全戸か

ら会費を徴収している事例もありましたけれども、たとえわずかでも自主財源を確保する。お金を負担することで、自覚も芽生えていく、参画もしていく、そういう仕組みを作っていく必要があるのではないかな、と思います。

それから人材とか人につきましても、そう簡単に広場事業だけすぐ人が集まって、続けてやるというのはなくして、地域づくり全般に関わることで、長い目で見ていかざるを得ないと思います。ですからこういう事業が続いていけばいくほど、うまく活用するところ、補助だけに頼っていくところという格差が出てくるのでは無いかな、と思います。

うまく地域を継続していくため、大原則はいかに地域の方が共有して、広場事業のことをみんな良く知ってる、こういうことについては情報共有して、上に立つ人が説明責任を果たしていくか。絶えず波動、動きを実感してもらおう。こういうことが広場事業に関わらず、まちづくり全般に関わることで、そういうことを一人ひとりが踏まえて今後は展開して頂く。

先ほど淡路から話がありましたけれども、今の活動をしていくと、国や県、市からの支援策は結構色々あります。それを上手にいかに見つけていくか。そういったことが行政とのタイアップ、いわゆる協働ですね。

一生懸命頑張っているところには「こんな制度が出来たけど、やりませんか」「国はこう言ってるけど、厳しいけど挑戦しませんか」というのがあります。ただ、頼るだけでなく、自ら発信していく。うちはこんなことしてるのやと。自らもお金を使う、集める。国や県、市、町の色々な支援策を誘導していく。ここが勝負だと思います。ですから5年経って終わるところでもそれは新たな始まりだと思います。新たな始まりを今のうちからどう作っていくのかな、ということをお今日のまとめとして皆さんに投げかけまして終わりたいと思います。

それでは4人のパネリストの方々ありがとうございました。会場の皆さんありがとうございました。以上で青空フォーラムを終わります。ありがとうございました。

(敬称略)

〔金澤副知事：あいさつ〕

みなさん、こんにちは。

今日は、朝早くから、地域コミュニティフェスティバルに参加をいただきまして、本当にありがとうございました。また、各広場の方々には、日頃からのご活動に、改めて心から敬意を表するとともに、今日、最後の最後までいろんなかたちでご報告・プレゼンテーションをいただいたことに深く敬意を表させていただきます。



この県民交流広場は、平成18年度からはじめまして、今では、631校区、県全体の校区の76%を占める地区で展開されております。本当にそういう意味では県の中に、広く深く根付いてきたなあと考えています。

その広場の活動の中身を拝見させていただいても、本当に多岐にわたっております。いろんな形の世代間交流あり、あるいは、お年寄りに焦点をあてた見守りの活動、子育ての支援もありますし、地域の環境保全とか、地域の防犯活動とか、活動内容は、本当に多彩です。また、それぞれの活動の展開の仕方をみても、地域団体ということだけでなく、地域の中で関係する団体と連携したり、あるいはNPO法人として担い手となったり、あるいは商店街と連携したり、NPOと連携したり、本当にやり方、組み立ても多彩。

そういう意味では、今日、これから表彰させていただくわけですが、ぎりぎりまで審査をいただいた野崎委員長ほか審査委員の皆様は心から敬意を表します。審査をするといひましてもおそらく実際に優劣をつけるわけにはいかない、それだけ多彩な活動ですし、ひとつひとつの顔をもつ活動ですから、この活動がすぐれている、すぐれていないという審査になり得なかったのではないかと思います。

印象といいますか、ちょっとだけ心に残った、響いた、というようなところが、おそらくアワードとして表彰されることになるのだらうと思います。そういう意味では、関わっていただいている631校区の県民交流広場、みんなそれぞれに頑張っていたらいいし、頑張っていたらいいし、みなさんに表彰状を差し上げたいなあとというのが正直なところ率直な意見です。

年に1回のアワードというかたちで、皆さんそろって発表していただいて、お互いに情報交換する、それぞれ、いいところがあったら持ち帰るという機会となる貴重な場ではなかったかと思えます。これからの表彰式も、また、お楽しみをいただければと思います。

それぞれの活動をこれからますます充実させていただき、地域住民の方の幸せと、実際にそれに関わっているご自身の幸せにつなげていただくことを心からお祈り申し上げて、お礼のごあいさつにしたいと思います。本当にありがとうございました。

〔野崎委員長：講評〕

私も、審査委員として、いろんなブースをまわらせていただいたり、絆プロジェクトのいろんな活動を見させていただいたんですが、審査でまわらせていただいたブースは、事前にいろんなデータで、こういう地域はこんな活動をしていますよといただいていたんですが、やはり、ブースをまわらせていただくと、なかなか、すごく出来を感じるブースが多くて、事前に書面でこういうことかなあと思っていたことが、期待を良い意味で裏切られた地域がたくさんあり非常にうれしく思っています。



イベントのスタートで、北辰保育園の鼓笛隊のかわいらしい演技がありました。去年と比べると、高校生のブースもかなり増えており、やはり、若い人たちや子供たちがたくさん今年は参加されていたという印象深かった。

県民交流広場事業もいろんなブースが、10の県民局から20の団体が選ばれて出たので、本当は甲乙つけがたい素晴らしい活動ばかりで、活動の内容も、地域地域でそれぞれ地域性がありますし、地域性ではなくても、ユニークな活動がいくつかあった。というのが、非常に印象に残りました。

例えば、淡路の伊加利地区、国際交流と地域交流の新しい形。今後は、国際交流ということが、地域のつながりの中で、どう働いていくのか、非常に楽しみに思っていて、今後をみさしていただきたい。

それから、明石の松が丘地区は、いわゆるガーデンづくりを中心にして、普通、県民交流広場事業といいますと建物を運営するイメージが多かったんですが、必ずしもそうじゃない活動も県民交流広場できるんだ。そういうことが印象に残りました。

今日、ご参加いただいた団体は、モデル事業から始まって、6、7年やっておられる地区もありますし、去年、建物ができてスタートしたばかりやという地区もありました。昔からやっているところは、無理をせずにじっくり、成長していただいて。スタートしたのが遅かったにもかかわらず、ここに選ばれて出てこられるだけの立ち上がりもすごく早い団体さんもありました。地域、地域で、いろんな成長というか、進化するスピードが違うけれど、じっくり足元を固めて前に進んでいただければと思います。

最初に、子どもさんの話をさせていただきましたが、やっぱり、これからの地域を支えていくのは、子どもたちであり、今の若者たちですね。そういう意味では、今日出ていただいたような子どもさんであるとか、若者達が地域の将来をちゃんと担っていけるよう、皆さんが、バトンタッチしていただくということが県民交流広場事業の大きな枠組みではないかと思えます。

世の中は、超高齢化社会とか言われていますけれども、やはり、地域地域で、交流広場事業で皆さんが身につけられたいろんな知恵を、県内でも、いろんな地域ごとに交流をして、知恵を交換しながら、それぞれの活動を、じっくり、時間をかけて、育てていただければと思います。

本当に、今日は、みなさん、素晴らしい活動に接することができて、ありがとうございました。

《選考基準》

① いきいき広場部門

(地域性：地域の個性、地域資源を生かした取組が顕著である。)

② なるほど広場部門

(独創性：ユニークなアイデアや独創的な取組が顕著である。)

③ みんなで広場部門

(多様性：多くの住民や団体等を巻き込んだ取組、効果的な情報発信、地域を越えた連携が顕著である。)

④ すくすく広場部門

(継続性：新たなリーダーの養成や安定的な財源確保の工夫などの取組が顕著である。)

⑤ しっかり広場部門

(組織運営の堅実性：民主的な意思決定機構や幅広い住民の意見聴取など組織運営上の取組が顕著である。)

地域コミュニティフェスティバルについて

子どもから大人まで、学びの場として利用されている
県立嬉野台生涯教育センターを舞台に、
地域づくりに活かさない
“交流”と“地域コミュニティ”をキーワードに、
地域づくりに携わっている方々の
ふれあいの空間をご提供します。

広島の交流を目指した「地域コミュニティ・アワード 2010」
絆をテーマに「北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会」
さまざまな世代が集う「うれしの秋の交流フェスタ」
の3つ交流の空間を融合させました。

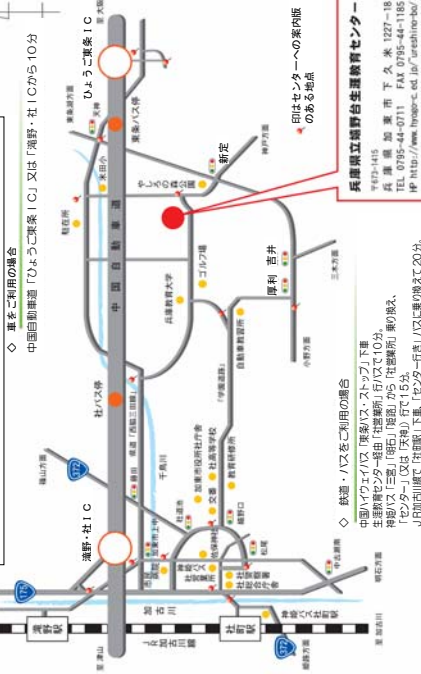
すばらしいひとときをお過ごし下さい。

タイムスケジュール

メインステージ(中庭)	展示・活動コーナーなど	演技・実演
09:50 ~ 10:30 オーケストラ・ 北底保育園鼓笛隊 開会宣言	10:00 プーズ展示 10:30 ~ 12:30 県民交流広場 事例発表選考	1000 実演・体験
10:30 ~ 11:00 音楽演奏		小野工業高等 燃料電池列車 (随時実施)
11:40 ~ 12:00 音楽演奏		つみっくらび つみき「遊び」 (随時実施)
12:30 ~ 12:50 太鼓(香呂・香呂南地区)	12:00 ~ 12:20 小野高等学校 ダンス(講堂)	
13:00 ~ 13:50 青空オーケストラ コンサート: 北底保育園(新井) / 小嶋 明氏 柏木登起氏	14:00 ~ 14:45 アワード表彰(講堂)	西脇工業高等学校 ソーラーカー (随時実施)
14:45 ~	14:45 ~ 抽選会	
	15:00	1500

※「アワード2010」一般参加者投票に参加しよう！10時から12時まで
アワード2010では、一般参加者の方の投票も考慮し、表彰団体を選考していきます。
一緒に、交流やコミュニティを感じてみませんか？
※県民交流広場スタンプラリーに参加してプレゼントをもらおう！
アワード2010の展示アースを20箇所まわられた方は、くし引き抽選会にご参加いただけます。地域のおもみや温泉チケットなどのプレゼントを用意しています。
※一般参加者投票とスタンプラリーの詳細は、折込の案内をご確認ください。

兵庫県立嬉野台生涯教育センターアクセススマップ



地域コミュニティ・アワード2010

県民交流広場を通じて培われた人と人とのつながりや
活動を継承し、事業の成果を生かすために、全県規模で、
広場活動にたずさわっている方がお互いに
活動のノウハウや課題を共有し、
意欲を高める交流の場づくりとして
地域コミュニティ・アワード2010を開催します。

北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会

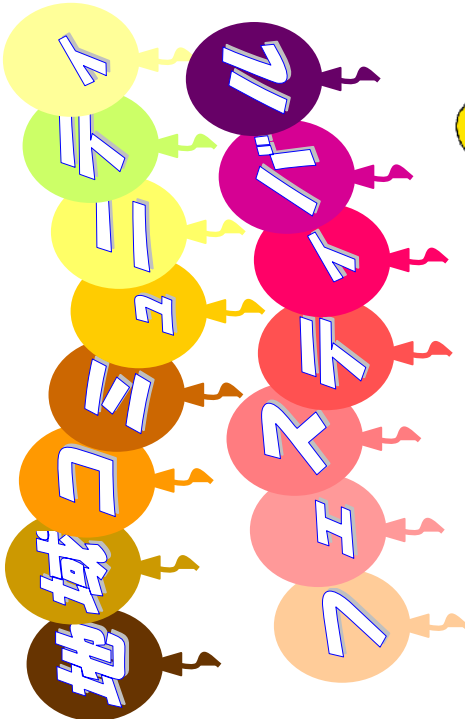
「家族の絆」「地域の絆」「生活(くらし)の絆」
の3つの絆を深め、
ともに支え合う北播磨づくりをめざし、
地域の県民交流広場をはじめ、生活研究グループ、市町等が
出展・参加し、人々の交流の輪を広げます。

うれしの秋の交流フェスタ

県立嬉野台生涯教育センターの緑豊かな自然環境を生かし
子どもから高齢者まであらゆる世代がふれあひながら
さまざまなプログラムを
地域団体等と連携を図り、協働で展開し
交流について考える機会とします。

アサヒビール株式会社 稲見酒造株式会社 グリーンピア三木「森の湯」
こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」株式会社神明 滝野温泉「ほかほ」
株式会社風月堂 吉川温泉「よかたん」 兵庫県立考古博物館
兵庫県立陶芸美術館 兵庫県立美術館 兵庫県立歴史博物館
ピッコロシアター

協賛企業・団体 (五十音順)



地域コミュニティ・アワード2010

北はりま絆プロジェクト 交流ひろば大会

うれしの秋の交流フェスタ



交流、共有、そして継承。

地域コミュニティ・ルネッサンス

日時 : 平成22年11月7日(日)

9:50 ~ 15:00

場所 : 県立嬉野台生涯教育センター

主催
県民交流広場全県連絡協議会 兵庫県 兵庫県北播磨県民局
(財)兵庫県生きがい創造協会 兵庫県立嬉野台生涯教育センター

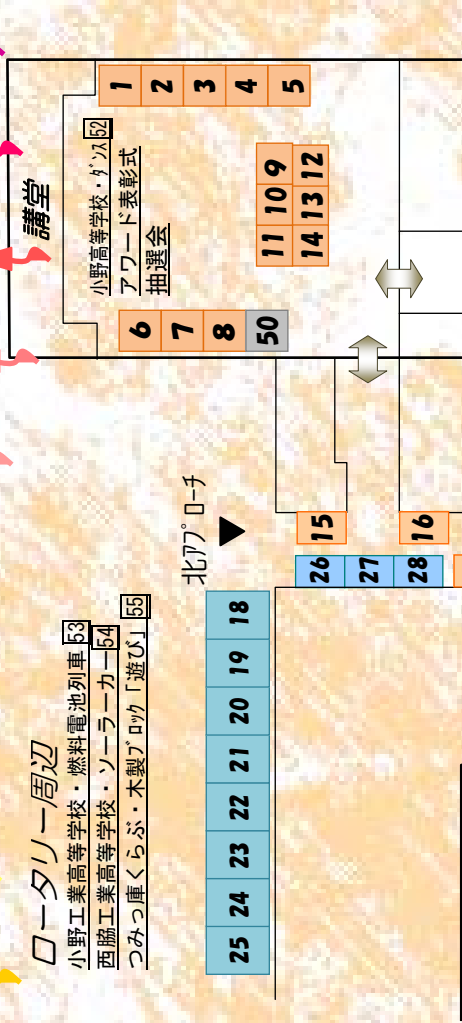
地域コミュニティフェスティバル



うまいもの市・展示

そば、黒田和牛カレーなど、北播磨の活動団体による食べ物の提供

18	コミスレ屋	K
19	企業組合 黒っこマザーズ	K
20	グループとまと	K
21	めおと味しるべ	K
22	菅荷紅茶の会	K
23	太閤の渡し	K
24	NPO 法人ぶんらっとさぎのみ	K
25	レストランうれし野	F
26	尼崎市尾浜地区	A
27	加西市雷田地区	A
28	南あわじ市伊加利地区	A



展示・活動コーナー

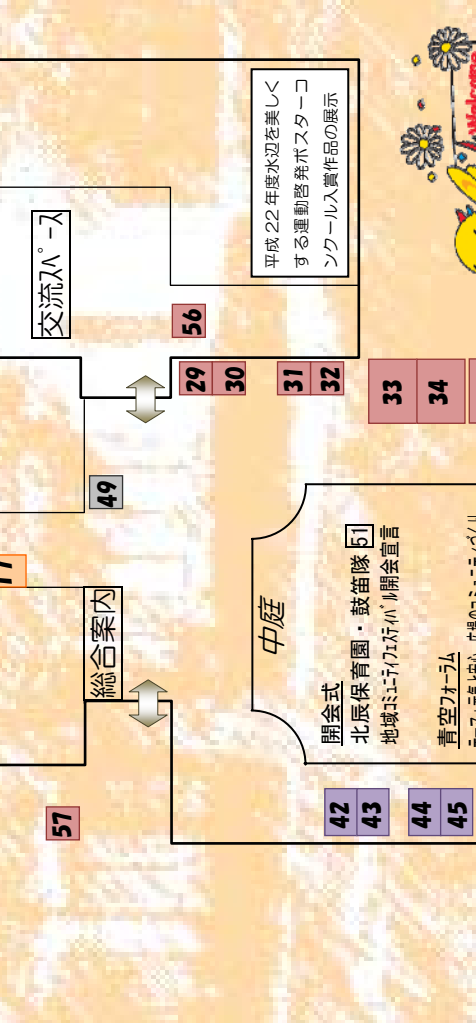
県民交流広場やうれしの秋の交流フェスタの方々による展示・実演

1	篠山市城南地区	A
2	神戸市西区西神南地区	A
3	神戸市北区北五草地区	A
4	相生市相生地区	A
5	たつの市新宮地区	A
6	養父市伊佐地区	A
7	新温泉町久斗山地区	A
8	姫路市香呂・香呂南地区	A
9	姫路市山之内地区	A
10	三木市志染地区	A
11	川西市けやき坂地区	A
12	西宮市東山台地区	A
13	播磨町播磨地区	A
14	宝塚市小浜地区	A
15	県立播磨農業高等学校	F
16	県立西脇高等学校	F
17	県立社高等学校	F

展示・活動コーナー

県民交流広場やうれしの秋の交流フェスタの方々による展示・実演

29	うれしの学園生涯大学 里山環境保全クラブ	F
30	うれしの学園生涯大学 七音会	F
31	うれしの学園生涯大学 てくてく	F
32	うれしの友の会	F
33	明石市松が丘地区	A
34	丹波市上久下地区	A
35	洲本市都志地区	A
36	ふるさと工房 夢蔵	F
37	加東市福田地区	K
38	多可町中北地区	K
39	小野市全域	K
40	三木市三木地区	K
41	加西市宇仁地区	K



観光・物産・朝市

小野の観光、多可の杉原紙など、北播磨の観光・物産の情報発信や販売

42	加東市	K
43	加西市	K
44	小野市観光協会	K
45	多可町・杉原紙研究所	K
46	北はりま絆ひろば・西脇市芳田地区	K
47	西脇市西脇・津万・比延地区	K

演技・実演・体験コーナー

北播磨の高校生による燃料電池列車・ソーラーカーの体験など

51	北辰保育園	F
52	県立小野高等学校	F
53	県立小野工業高等学校	F
54	県立西脇工業高等学校	F
55	つみっくらぶ	F
56	うれしの生活創造プラザ	F
57	うれしの学園生涯大学 一福会	F

※ 51から57の演技・実演・体験コーナーは、中庭・講堂ほかで実施されます。

A: 地域コミュニティ・アワード2010
K: 北はりま絆プロジェクト交流ひろば
F: うれしの秋の交流フェスタ



県民交流広場スタンプラリー & アワード投票券

スタンプを20箇所集めると、午後2時45分からの抽選会に参加できます！

神戸市西区西神南(せいしんみなみ)地区

井吹台地区では、今も開発と分譲が続いています。子ども達も増え、また高齢者も増加する中、5年後10年後のこの街を思い、今何が必要か、街が担う役割など、行政と連携し、様々な取り組みを継続しています。

- ・ふれあいまちづくり協議会5カ年計画
- ・井吹台自治会連合会重点目標
- ・福祉のまちづくりの機能強化

誰もが安心して住み続けられるまちづくりを目指して

2 スタンプ



神戸市北区北五葉(きたごよう)地区

一人でも多くの地域の人達に参加してもらえるように、幼児を対象にした子育てサークル、高齢者に参加してもらえるなつかしの映画会等、バラエティーに富んだ活動に取り組んでいます。メタボが気になる人もいるので、普段の食事反省の材料にもらうため、成人病予防の料理教室もあります。パソコン教室も若い人から高齢者までの参加があります。

3 スタンプ



尼崎市尾浜(おはま)地区

H18 に採択され、尼崎市尾浜地区での「地域通貨おつ」の発行流通事業にあわせて、地域自治の構築、地域市民が共に支えあえるシステムづくりを目指して活動をしています。

活動内容としては、「高齢者ふれあい喫茶」「親子ふれあい広場」「丹波直送野菜市」「ボランティア交流会」「すま介護モデル事業」「おイベント」などを実施しています。

26 スタンプ



西宮市東山台(ひがしやまだい)地区

東山台は、2,173世帯、人口6,500人のニュータウン。第一の課題は住民交流の促進。集会や催物とは違い、「カフェ・ナシオン」と「ふれあい朝市」は、ごく普通の飲食と物販の場です。スタッフも住民、お客様も住民です。ここでは、気取らない自然な語らいが生まれます。カフェは2年半、朝市は1年半の実績があります。

12 スタンプ



宝塚市小浜(こはま)地区

住んでよかった「小浜小学校区」となることを目標に日々活動に取り組んでいます。独居老人を対象とした「いきいきサロン」、小学生等を対象とした「ミニ児童館」をはじめ、「健康体操」「囲碁・将棋・麻雀教室」「多世代イベント」など多種多様な活動を展開するとともに、模擬店やバザーなどにより活動資金の確保に努めています。

14 スタンプ



川西市けやき坂(けやきざか)地区

地域住民が気軽に集える「場」、つながりあえる「場」、多様なニーズに応える協働の「場」として「交流会館けやき」が生まれました。「ふれあいサロン」や「ふれあい喫茶」「映画鑑賞会」のほか高齢者支援事業の実施、絵画・写真・手芸などの作品展示の場としても活用しています。また、地域防犯の拠点として、警察官立ち寄り所にもなっています。

11 スタンプ



明石市松が丘(まつがおか)地区

県民交流広場事業助成を活用して「松が丘のまちを元気にしたい」ということで取組を進めてきました。

これまで、諸活動の充実と設備の整備を進めてきましたが、その中心は、1,200㎡の荒地を整備し、住民と小学校・幼稚園の子どもが交流しながら「花づくり」「野菜づくり」を進めている活動です。

33 スタンプ



播磨町播磨(はりま)地区

文化活動を通じて住民のコミュニティづくりを目指し、事業開始時に結成したはりま少年少女合唱団の育成、はりま合唱音楽祭やコンサートなどを開催しています。また、料理教室は、学校休み期間に子ども料理教室、このほか一般や男性の料理教室を実施しています。事業の進行は、広場理事会を中心に計画し、各種団体の協力を得ながら、満席好評で行っています。

13 スタンプ



三木市志染(しじみ)地区

志染ふれあい委員会は、志染地区の自治会、婦人会、老人会、子ども会、小中学校PTA、消防団など、地域のあらゆる団体が参加し、納涼大会をはじめ、敬老会、3世代交流グラウンドゴルフ大会、歴史散策、地域の美化活動、文化祭、広報誌の発行などを通じて、町民相互の交流を図り、まちづくりを推進しています。

10 スタンプ



加西市富田(とみた)地区

地域の特色ある農産物の開発を事業の核とし、手始めに味噌造りに取り組んでいます。転作田を活用し、主原料の青大豆の種時きから収穫まですべて校区民の手作業。必要な計器備品等の多くは地域住民の技術を結集し製作。その他夏祭り、三世代交流グラウンドゴルフ大会等年間を通じて少しでも多くの住民が参加できる機会をつくり、ふれあいの広場づくりをしています。

27 スタンプ



---キリトリ線---

県民交流広場 投票時間：10時から12時

アワード投票券！

一般の方もアワード選考に参加できます！
対象の20地区の中から、お気に入りの2地区を選び、予備えつけの投票箱に投票ください！

投票の目印は、看板右上の「アワード2010」

---キリトリ線---

県民交流広場 投票時間：10時から12時

アワード投票券！

一般の方もアワード選考に参加できます！
対象の20地区の中から、お気に入りの2地区を選び、予備えつけの投票箱に投票ください！

投票の目印は、看板右上の「アワード2010」

キリトリ線

県民交流広場スタンプラリー & アワード投票券

スタンプを20箇所集めると、午後2時45分からの抽選会に参加できます！

姫路市香呂・香呂南(こうろ・こうろみなみ)地区

今なお多くの田園地帯を有する香呂・香呂南地区は、旧町時代にベッドタウンとして新興住宅地の開発が盛んにされた地域です。主な活動として、県民交流会館を利用したふれあい交流喫茶、スポーツ大会、地域資源の発掘・継承伝承などを行い、住民間・世代間の交流を深めています。今後は、パソコン教室・おやじ料理教室など高齢者の豊かな生活を支援する事業も計画しています。

8 スタンプ



姫路市山之内(やまのうち)地区

姫路市の最北端に位置し、過疎化と高齢化という課題を抱える山之内地区では、地域を何とか盛りあげようと、ふれあい喫茶、文化祭&農業祭、スポーツ大会など、世代間交流や住民の生きがいづくりにつながる事業を多く開催しています。また、将来的に地域の特産品にすることを掲げて、全世帯で山椒の木を育てるなど、地域住民が一丸となって山之内の活性化に取り組んでいます。

9 スタンプ



相生市相生(あいあい)地区

「いつでも誰でも」をモットーに多くの人々が利用し、茶飲み話をしながら気軽に交流を深められるよう心がけています。また、ひろばで、イベント、教室、講演会などを開催したり、まちかどギャラリーのため地域住民から絵画、手工芸作品などの提供を受けています。あいあいひろばでは、地域資源の発掘と保存を行っており、古い写真、昔の道具などを見ることが出来ます。

4 スタンプ



たつの市新宮(しんぐう)地区

豊かな自然と郷土の歴史・文化を再認識し、地域の特性を生かしたまちづくりを推進。また、子ども達の健全育成と高齢者の孤独感解消に努め、家庭と地域の絆を深める活動や、多世代の人達と地域の問題を共に考える交流活動を強化。以上を活動目標にし、たつの市指定文化財である「ムクの木」をキーワードに、楽しくまちづくりに取り組んでいます。

5 スタンプ



養父市伊佐(いざ)地区

「食の安全・食の改善」をテーマに多世代・住民間の交流を通じた健康増進とコミュニティづくりを進めています。

6 スタンプ



健康増進を目指した各種料理教室を開催しているほか、多世代・住民間のふれあい交流事業を実施しており、特に今年度は、地域高齢者を対象にした子育て支援事業も計画しています。

新温泉町久斗山(くとやま)地区

久斗山農産加工組合は、過疎化が加速し集落内の小学校が閉校するに伴って、地域のイメージが暗くなるため、廃校舎を利用した集落活性化をめざし組合を立ち上げました。

7 スタンプ



久斗山産の原材料を使用し、栃もちや佃煮を製造・販売しています。子供や高齢者等のふれあい交流事業も多数行っています。

篠山市城南(じょうなん)地区

母親が子育てをしながら安心して働ける環境の支援を地域全体の課題としてとらえ、丹波地方で初めてとなる民設民営型の放課後児童クラブ(学童保育)「ピープル」を、NPO法人を設立し運営しています。

1 スタンプ



また、地区内の農業の活性化や世代間の交流にとりくむとともに、都市との交流を行い、地域の魅力のPRを行っています。

丹波市上久下(かみくげ)地区

恐竜化石発見から化石を活かしたまちづくりを地域で進めています。発見現場にボランティアで活動拠点「元気村かみくげ」を建設し、恐竜グッズの販売、野菜等の販売、恐竜焼きの販売などを行っています。又、発見現場を訪れる人たちに恐竜化石発掘体験ができる施設もつくりました。

34 スタンプ



洲本市都志(つし)地区

地域住民にさらに開かれた交流にすべく、週1回「ふれあい喫茶」を開店し、健康メニューを提供して住民相互の交流を図ることにしました。

35 スタンプ



また、瓢箪づくりに始まり、希望者とともに瓢箪を加工した作品づくりをして、交流を深めます。事業が終わってからも継続できる取組としました。

南あわじ市伊加利(いかり)地区

過疎化が進行する中、地域活性化を目指し、国際交流を大きなテーマに活動してきました。中でも一番大きな事業は、「イターナショナル田舎の運動会」です。留学生を招いて2泊3日のホームステイや運動会での交流を通じて子供達に外国の風習、文化を肌で感じ取ってもらう。そして、肌の色、目の色、言葉は違って人間皆同じと実感し、今後、自分の人生の中に、子供のころの経験が生かされればと思います。

28 スタンプ



県民交流広場スタンプラリーに参加してプレゼントをもらおう！

県民交流広場スタンプラリーに参加し、
スタンプを **20箇所** 集めていただいた方には、
くじ引き抽選会において地域のお米や温泉券などをプレゼントいたします！
抽選会は、午後2時45分より実施しますので、是非ともご参加ください！

2 地域交流フェスタの実施概要

地域づくり活動、生涯学習、地域文化の振興など、これまでの生活創造センター、文教府・文化会館等での取組をベースに、県民局単位でも広場同士の交流を図り、相互活動のノウハウや課題を共有する地域交流フェスタを開催した。

◇ 各地域における地域交流フェスタの実施内容

地域	日時・場所	実施内容	合同で実施した事業
神戸	2月20日(日) 10:00~16:00 神戸生活創造センター	事例発表、グループワーク、広場実施団体等による作品、パネルの展示	生活創造フェスタ
阪神南	2月25日(金) 13:30~15:30 尼崎市立労働センター	県民交流広場事例発表会、パネルの展示	県民交流広場地域ネットワーク会議
阪神北	10月16日(土)・17日(日) 有馬富士公園	広場実施団体等による作品、パネルの展示、実演	ふれあいの祭典 きらっと 北摂フェスティバル
東播磨	1月22日(土) 10:00~16:00 東播磨生活創造センター	広場とかこむ倶楽部との交流、広場実施団体等による作品、パネルの展示、工作・体験コーナー、ご当地食品見本市、まちづくりの取り組み紹介コーナーほか	かこむ de 見本市~かこむ新春大感謝祭~
北播磨	11月7日(日) 10:00~15:00 県立嬉野台生涯教育センター	広場実施団体等による作品、パネルの展示、特産品の販売ほか	地域コミュニティ・アワード2010、北播磨“絆”プロジェクト
中播磨	12月18日(土) 10:00~15:00 市川町文化センター	広場実施団体等による作品、パネルの展示、特産品の販売ほか	中播磨自治会・女性団体交流研修会、中播磨地域子育てネットワーク交流大会、「わくわく親ひるば」体験まつり、中播磨子育てポータルサイト意見交換会、中播磨環境交流会議
西播磨	9月11日(土) 9:30~15:45 県立西播磨文化会館	広場実施団体等による作品及びパネルの展示、地域ネットワーク会議や“いきいきトーク”による交流会、その他うまいもの市やフリーマーケットほか	地域ネットワーク会議、生活創造活動グループ作品展、生活創造活動グループ交流会
但馬	9月11日(土) 12:30~16:00 県立但馬文教府	広場と生活創造活動グループとの交流会、広場の活動事例発表、パネル展示及び特産品等の販売、但馬生活創造情報プラザ登録グループの活動発表、はばタン消費者ネット但馬活動発表ほか	生活創造活動グループ交流会(みてやま交流会)、高齢者大学OB会等による団塊の世代・シニアの広場デビュー支援事業、県民交流広場事業等のネットワーク化支援事業、はばタン消費者ネット但馬活動発表会
丹波	10月31日(日) 丹波の森公苑	広場実施団体等による作品、パネルの展示、都市との交流会ほか	丹波の森フェスティバル
淡路	10月3日(日) 10:00~15:00 県立淡路文化会館	広場実施団体等による作品、パネルの展示、特産品の販売ほか	いざなぎの丘元気っ子フェスティバル、「家族の日」写真コンクール入賞作品展、「わがやのルール」入賞作品展、「飛び出し注意くん」写真展

2-1 神戸地域県民交流フェスタ

- ◆ 日時 平成23年2月20日(日) 10:00~16:00
- ◆ 場所 神戸クリスタルタワー 6階・4階(神戸市中央区東川崎町)

◆ 趣 旨

神戸地域の県民交流広場実施団体相互の活動のノウハウや課題を共有するとともに、生活創造活動グループとの交流を図り、広場における今後の継続的・発展的な取組への意欲を高め、地域活動のさらなる充実を支援するため、神戸生活創造センターの「生活創造フェスタ」と合同で開催。

◆ 内 容 <テーマ>～地域活動のさらなる飛躍に向けて～

◇事例発表：3事例 (6階：ひょうごボランタリープラザ「セミナー室」)

- ①西区・井吹東ふれあいのまちづくり協議会：「ふくし銀行」、救急救命インストラクターの育成 等
- ②北区・北五葉ふれあいのまちづくり協議会：成人病予防料理教室、なつかしの映画喫茶 等
- ③神戸生活創造センター・NPO 生命の貯蓄体操：「ピピンねっと」・グループ活動紹介 等



◇グループワーク：4テーマ (6階：ひょうごボランタリープラザ「セミナー室」)

- ①課題の確認・共有化：『人材』…4グループ
- ②課題の確認・共有化：『活動』…4グループ
- ③課題の確認・共有化：『財源』…1グループ
- ④『活動の広がりと
スキルアップに向けて』…2グループ

《講師・コーディネーター》

野崎 隆一(神戸まちづくり研究所)



◇活動展示：「県民交流広場」PRコーナー (4階・生活創造プラザ)

- ・2地区：①井吹東ふれあいのまちづくり協議会、②北五葉ふれあいのまちづくり協議会

◆ 参加者数

◇「神戸地域県民交流フェスタ」：80人

- ・県民交流広場実施地区…68人/42団体
- ・県・市関係者等…12人

◇「生活創造フェスタ」：687人

- ・ステージ発表…19グループ：コーラス・紙芝居・マジックショー 等
- ・体験コーナー…16グループ：折り紙・おもちゃ作り・健康体操 等

◆ 成 果

- ・区を越えた県民交流広場相互の情報交換・交流を通じて、活動のノウハウの共有化が図れた。
- ・テーマ別のグループワークを通じて、今後の取組に向けての課題の確認・共有化が図れた。
- ・生活創造活動グループとの交流を通じて、相互の活動の広がりに向けてのきっかけづくりが図れた。

2-2 阪神南地域県民交流広場ネットワーク交流会

- ◆ 日時 平成23年2月25日(金) 13:30~15:30
- ◆ 場所 尼崎市立労働センター(尼崎市東難波町)

◆ 趣 旨

現在、阪神南地域で県民交流広場事業を展開している72広場の関係者が一堂に会し、今後の広場運営にかかる情報交換や広場同士のつながりに役立つことを期待し開催した。

◆ 内 容

尼崎市5カ所、西宮市2カ所、芦屋市2カ所の特徴ある活動をパワーポイント等を使って、事例発表をし、各発表団体の詳しい活動内容を展示した。

最後に、阪神南地域推進委員会会長で、(社)兵庫県子ども会連合会常務理事・事務局長の速水順一郎氏に地域づくりのアドバイスをいただいた。



【発表団体の活動紹介】



【事例発表の様子】



【速水氏の講評】

◆ 成 果

既存の広場に加え、平成22年度下期採択の広場や、簡易申請団体の出席も得て、今後の活動内容や組織のあり方などについて、参考になった。

2-3 阪神北地域交流フェスタ

- ◆ 日時 平成22年10月16日(土)・17(日) 10:00~16:00
- ◆ 場所 県立有馬富士公園・休養ゾーン(三田市尼寺(千丈寺湖畔))



◆ 趣 旨

阪神北地域の県民交流広場をはじめ、子育てや環境、文化、生涯学習など様々な分野で活動する地域団体等の交流を図ることにより、活動のノウハウや課題を共有し、広場における今後の継続的な取組への意欲を高め、活動の充実を支援することを目的とする。

◆ 内 容

当日は、ふれあいの祭典「きらっと☆北摂フェスティバル」と合同開催し、2日間で73,000人の来場者があった。「多世代交流ひろば」、「みんなの発表ひろば」、「わいわい手作りひろば」、「エコと健康のひろば」、「全県・北摂まるかじりひろば」とテーマごとに分けた会場では、スポーツ体験を通じた多世代交流や、地産地消をテーマにした料理教室、フリーマーケット、飲食・物産販売コーナーなど279ブースの出展があったほか、文化団体等によるステージ発表も行われた。

県民交流広場実施地域では、小浜地区が手作り木工教室と瓦煎餅の販売を、西谷地区からはダリアの花びらのカーペットづくりの出展があった。

また、阪神北管内の県民交流広場の活動を写真で紹介したパネル展示コーナーを設け、多くの方々に県民交流広場をPRする機会となった。



◆ 成 果

ふれあいの祭典と同時開催したことにより県民交流広場だけでなく、様々な分野で活動する地域団体・NPO等の参加があり、今後、これらの団体との連携や人材の活用など活動継続に向けての取組が期待できる。

パネル展示等を通じて県民交流広場の取組を一般県民に広く周知することができた。

2-4 東播磨地域交流フェスタ

- ◆ 日 時 平成23年1月22日（土） 10:00～16:00
- ◆ 場 所 東播磨生活創造センター「かこむ」（加古川市加古川町）

◆ 趣 旨

県民交流広場の活動について、活動促進、交流、助成金終了後の活動継続支援を趣旨とした展示・販売等を実施。また、「かこむ」のよろず相談事業、コーディネート事業、情報発信事業も併用し、多面的なサポートを実施。

◆ 内 容

平成23年1月22日、東播磨生活創造センター「かこむ」（兵庫県加古川総合庁舎）で「かこむ新春大感謝祭」を開催。来場者は約1300人余り。同感謝祭では、かこむの登録団体と来場者、出店団体同士が交流し、今後の活動を活性化するきっかけとなるよう“かこむde見本市”と“かこむdeマルシェ”を同時開催。

“かこむde見本市”ではかこむの登録団体や県民交流広場による工作教室や販売・パネル展示などを開催。同見本市には、県民交流広場から計5地区が参加。「播磨町播磨地区の播磨・県民交流広場協議会」と「高砂市米田地区の米田仲よし広場」が出店し、販売と展示を行い、「明石市魚住地区の住みよい住みたい魚住まちづくり協議会」と「明石市松が丘地区の松が丘地区コミュニティ推進協議会」、「明石市江井島地区の江井島コミュニティ推進協議会」がパネル展示で参画。



【米田地区は手作りのお箸セットを販売】



【ギャラリー】



【会場風景】



【播磨県民交流広場はオリジナルパンの販売を！】



【講座研修室では活動についてのパネル展示】



【新鮮な魚貝や生花の販売】



◆ 成 果

- ・ 販売・展示やパネル展示等を通して、各県民交流広場の取組を参加された県民の方々に広く知って頂くことができた。
- ・ 他の県民交流広場やかこむ登録団体との交流が深まり、ノウハウや情報の交換ができた。また、幅広い年齢層の方々のニーズを知ることができ、各広場の課題や新たな活動に向けて視野が広がった。

2-5 北播磨地域交流フェスタ

◆ 月 日 平成22年11月7日(日)

◆ 場 所 嬉野台生涯教育センター(加東市下久米)

◆ 趣 旨

北播磨の県民交流広場等の交流の場となる「北はりま絆プロジェクト交流ひろば大会」や嬉野台生涯教育センターの「うれしの秋の交流フェスタ」を全県事業の「地域コミュニティ・アワード2010」と合同開催した。出前県民交流広場やうまいもの市などのブースが並ぶ会場に、地域や世代を越えて多くの人が集い、晩秋の一日を楽しみながら絆を深めた。

◆ 北はりま絆プロジェクト交流ひろば大会

◇アワード出展

- ・志染ふれあい委員会(三木市):活動紹介パネルの展示
- ・富田まちづくり推進協議会(加西市):味噌造り等の紹介(味噌汁の試食、甘酒の試飲)等

◇絆ひろば出展

- ・比延地区交流推進委員会(西脇市):ひょうたん焼き(菓子)、秋の混ぜご飯などの販売
- ・芳田ふれあい会議(西脇市):朝市による地場産野菜、ぜんざいの販売
- ・三木地区ふれあい交流事業推進委員会(三木市):活動写真、広報紙等の展示
- ・小野地区地域づくり協議会(小野市):コミレス陣屋の出前出展、市内各協議会の活動紹介
- ・宇仁郷まちづくり協議会(加西市):朝市による新米、野菜類の販売
- ・福田地区地域づくり協議会(加東市):パネル展示、ビデオ上映
- ・中北校区地域づくり委員会(多可町):活動状況のパネル展示

◇うまいもの市

生活研究グループより企業組合黒っこマザーズ(西脇市)、グループとまと(小野市)、めおと味しるべ(加東市)、箸荷紅茶(多可町)の会の4団体が、小野市より太閤の渡し、ぷらっときすみの2団体が、県民交流広場からもコミレス陣屋が出展し、巻き寿司、カレー、うどん、コーヒーなど盛りだくさんのうまいものが並んだ。

◇観光・物産PR

小野市観光協会、加西市(ふるさと営業課)、加東市(企画政策課)、多可町・杉原紙研究所による観光PRと物販が行われた。

◆ うれしの秋の交流フェスタ

- ◇北辰保育園 : 園児による鼓笛隊演奏
- ◇小野高等学校 : ダンス部によるダンス
- ◇小野工業高校 : 燃料電池列車の試乗
- ◇西脇工業高校 : ソーラーカーの試乗
- ◇播磨農業高等学校 : 物産販売
- ◇西脇高等学校 : 播州織り小物販売
- ◇うれしの学園生涯大学地域活動実践講座
「一福会」: お茶席、「七音会」: オカリナ体験他
「てくてく」: 紙芝居、「里山環境保全グループ」: 手づくり体験
- ◇社高等学校 : 地産地消の手作りお菓子販売
- ◇ふるさと工房 夢蔵 : 巻きずし等販売
- ◇つみっ庫くらぶ : 木製ブロック遊び
- ◇うれしの友の会 : 紙てっぽうづくり体験、駄菓子・物産販売



【朝市】



【うまいもの市】



【社高等学校の菓子販売】

◆ 成 果

- ・3つのイベントを合同開催することにより、多彩な交流空間が生まれ相乗効果を高めることができた。
- ・北播磨の県民交流広場や団体・グループはもとより全県の県民交流広場と出会い交流することで、お互いに刺激され、地域づくりの意識を一層高めることができた。
- ・うまいもの市や観光物産コーナーなどを通じて北播磨の魅力を発信することができた。
- ・会場には1,800人が訪れ、高校生など若い層にも県民交流広場の取り組みをアピールし理解を深めることができた。

2-6 中播磨地域交流フェスタ2010（中播磨地域活動交流メッセ）

- ◆ 日時 平成22年12月18日（土）10:00～16:00
- ◆ 場所 市川町文化センター（神崎郡市川町西川辺）

◆ 趣 旨

中播磨地域の地域団体が、先導的な活動を行っている他団体の活動を知り、協働して活動するきっかけをつくるとともに、地域の活動と家庭をつなぎ、より一層、地域コミュニティの活性化を図ることを目的として実施した。

◆ 内 容

◇ 県民交流広場活動パネル展

中播磨管内の全県民交流広場事業実施地区の活動について、パネル展示で紹介した。

※ロビーで「地域づくり活動なんでも相談」も開催。

◇ 地域づくり講演会

ラジオパーソナリティ谷五郎氏を講師に迎え、「笑って元気、地域も元気」をテーマに講演会を開催した。

◇ 地域づくり活動実践発表会

先導的な取組を行っている管内の地域団体による活動発表を行った。

- ・山之内地区：「山之内地区の現状と今後の取組について」
- ・青山地区：「子どもが主役のまちづくり」
- ・筋野地区：「みんなの力で地域をいきいきと」
- ・香呂及び香呂南地区：「ふれあいトライアングル」
- ・城西地区：「船場川と市街地にホテルを飛ばそう」



【県民交流広場活動パネル展】



【地域づくり講演会】



【地域づくり活動実践発表会】

◇ 芝生ひろば

地域団体による特産品販売などを行った。

- ・川上地区：「平家そば」
- ・長谷地区：「そば雑炊・おはぎ・ぜんざい」
- ・新田・作畑地区：「味噌・こんにゃく・山椒等」
- ・香呂・香呂南地区：「野菜」
- ・花田地区：「皮革製品販売、レザークラフト」
- ・川辺・甘地地区：「ふれあい喫茶」 ほか



◇ 絵本の読み聞かせなど親子向けイベント

ボランティアによる絵本の読み聞かせ、すごろくやお手玉などの伝承遊び教室、子育て講演会、ファミリーコンサート、クラフト教室、家族の記念写真撮影会など、親子向けのイベントを多数開催した。

◆ 成 果

中播磨地域の地域団体が一堂に会するまたとない機会となったフェスタ当日は、幅広い年齢層から約3,000名の参加者があった。多彩なイベントを通して、団体、地域住民、世代間の交流を図ることができた。また、パネル展示や実践発表、特産品販売を通して、管内の県民交流広場事業の活動について、広くPRすることができた。

2-7 西播磨地域交流フェスタ

- ◆ 月 日 平成22年9月11日(土)
- ◆ 場 所 西播磨文化会館(たつの市新宮町)

◆ 趣 旨

地域づくり・生涯学習・地域文化の振興等の活動に取り組む県民交流広場や生活創造活動グループ、各種団体等が活動成果を発信することにより、互いにノウハウや課題を共有しネットワークづくりをすすめるため、「出会い ふれあい いきいき広場」をテーマに開催した。

◆ 内 容

ステージにおいては、午前中、県民交流広場「地域ネットワーク会議」を開催した。

地域コミュニティ・アワード2010出展地域である「相生市相生地区」と「たつの市新宮中地区」からの活動事例発表の後、『ネットワークを活かしたこれからの地域づくり』をテーマに(特)神戸まちづくり研究所事務局長 野崎隆一氏のコーディネートにより、先の2地区のほか、地域活動団体及び行政による「いきいきトーク」を実施した。その中では、ネットワークを形成することにより課題の解決や活動の充実等につながった事例等が紹介された。

また、午後からは、生活創造活動グループ等15団体により吹奏楽演奏、活動発表、播州段文音頭等のステージ発表を実施した。



会場の中庭等においては、25団体による「西播磨うまいもん市」「体験コーナー」等を実施したほか、美術展示室において、水墨画、ちぎり絵、工芸品等の作品展示を行った。



◆ 成 果

- ・県民交流広場からは、4団体がパネル展示等を行ったほか、各地区から60人の来場者があり、広場同士の交流を深めることができた。特に、事例発表した2地区のコミュニティ・ビジネスやふれあい喫茶事業への取組は、事業内容や運営方法等他の地区が大いに参考となる内容であった。
- ・当日は1,100名の来場者があり、県民交流広場の活動団体と生活創造活動グループ等がお互いの活動内容等を知ることにより交流を図ることができた。
- ・いきいきトークの際にとったアンケートから、住民の関心、リーダーやスタッフ、活動内容等様々な課題を抱えていることがわかったため、今後さらに情報の提供等を通じた支援が必要と感じられた。

- ◆ 月 日 平成22年9月10日(土)
- ◆ 場 所 但馬文教府(豊岡市妙楽寺)

◆ 趣 旨

但馬地域の県民交流広場と生活創造活動グループ等が交流を図り、相互に活動のノウハウや課題を共有し、県民交流広場における今後の継続的な取組への意欲を高め、生活創造活動の充実を支援するため、「但馬地域交流フェスタ2010」を但馬生活創造応援隊による「みてやま交流会」や「はばたん消費者ネット但馬活動発表交流会・物販展」と同時開催した。

◆ 内 容

◇県民交流広場PR物産展・パネル展

- ・ 県民交流広場5地区が物産(じろはったん米、漬け物、佃煮、餅、味噌等)の販売を実施
- ・ 但馬の全県民交流広場が取組状況をパネル展示

◇県民交流広場の活動発表

- ・ 港地区: 地域の特色を盛り込んだ「港かるた」の製作と活用による地域おこし・人づくり等の活動を発表
- ・ 伊佐地区: 男の料理教室による健康づくり活動や地元小学生との交流事業、孫育ての学習事業について発表
- ・ 生野地区: 青色回転灯パトロール車を利用した子どもの通学時見守り活動等、地域安全への取組を発表
- ・ 余部地区: 余部鉄橋を中心とした地区の歴史や住民活動の紹介と未来への継承について発表
- ・ 久斗山地区: 地元農産物の加工や販売等、農産加工組合によるコミュニティビジネス活動等を発表



◇フォーラム(パネルディスカッション・ワークショップ)

ライフデザイン研究所 FLAP 代表で兵庫県コミュニティ応援隊の岩木啓子氏をコーディネーターに、「但馬の活動 元気アップしよう!」をテーマとして、フォーラム(即答フリップ方式全員参加型パネルディスカッション)を実施した。

【討議内容】

- ・ 活動を始めたきっかけ
- ・ 活動におけるプラス面(手応え・やりがい・工夫)
- ・ 〃 マイナス面(しんどさ・悩み)
- ・ 最近暮らしや地域のありようで気になること
- ・ これからの活動として取り組むべき課題



◆ 成 果

- ・ パネル展示や活動発表等を通して、各県民交流広場の取組を一般県民に広く周知することができた。
- ・ 但馬地域の県民交流広場や生活創造活動に取り組む住民が集い、全員参加型の手法を用いたワークショップ等で、活動の成果や課題等を活発に情報交換し、活動のノウハウを共有することができた。
- ・ 生活創造活動グループや他団体の多様な活動を知ること、広場事業への活用や活性化、グループ活動の場の拡大、活動継続の意欲向上等につながった。



2-9 丹波地域交流フェスタ

- ◆ 日 時 平成22年10月31日(日)
- ◆ 場 所 丹波の森公苑(丹波市柏原町)

◆ 趣 旨

地域づくり活動、生涯学習、地域文化の振興など、これまでの生活創造センターでの取組をベースに実施する「丹波の森フェスティバル2010」と同時開催により、来苑者に県民交流広場の取り組みを紹介するとともに、県民交流広場同士の交流を図り、相互に活動のノウハウや課題を共有する「地域交流フェスタたんば」を開催した。

◆ 内 容

◇県民交流広場の紹介

- ・丹波管内の県民交流広場実施地区の全地区を地図等を用いて紹介。
- ・アワードに出展する「城南」及び「上久下」の両交流広場の取り組みについては、コーナーを設けパネル展示等で活動を紹介。

◇体験の場づくり

【上久下地区】

化石発掘現場の近くの「元気村かみくげ」で行っている「化石発掘体験」を紹介。

午前中1回、午後2回の3回、希望者による発掘体験実施。来苑者に大好評を得た。



◇賑わいの創出

森フェスティバルの屋台コーナーに「県民交流広場」として出展、特色ある取り組みの紹介を兼ねて、地域の協力で「賑わいの創出」に一役。

【大山地区】

地域の伝統食である、ゆらりの「豆腐めし」の試食など活動紹介。

【草山地区】

地域の農産物を使った「草山なべ」の試食など食育活動をはじめとする活動を紹介。

【葛野地区】

貸し農園やしいたけ栽培など都市との交流をテーマとした取り組みや、活動拠点で販売している「紫巻き」の試食などによる活動紹介。



◆ 県民交流広場の課題の共有化

都市との交流に取り組み丹波地域の県民交流広場(9地区)と阪神間の県民交流広場(9地区)がお互いの理解を深める「都市・農村交流ネットワーク」会議を開催、意見交換を行う中で、課題を共有した。

また、午後から、丹波管内の県民交流広場の課題の共有化のために「丹波地域県民交流広場ネットワーク会議」を開催、意見交換や講師からのアドバイス、提案を受け、県民交流広場同士の交流、ノウハウや課題の共有ができた。

2-10 2010 淡路地域交流フェスタ

- ◆ 日 時 平成22年10月3日(日) 10:00~15:00
- ◆ 場 所 淡路文化会館(淡路市多賀)

◆ 趣 旨

淡路島内の県民交流広場同士の交流を図り、相互に活動のノウハウや課題を共有し、広場における今後の継続的な取組への意欲を高め、活動の充実を図ることを目的として実施した。

◆ 内 容

当日は、淡路文化会館が実施する「いざなぎの丘元気っ子フェスティバル」と合同開催し、地域づくり活動や、生涯学習の団体等が、子どもの健全育成を目的としたプログラム等を準備し、飲食・販売ブース(15ブース)、ペットボトル風車づくり、わら細工・竹細工などのわくわく体験ブース(44ブース)の出展があった。

県民交流広場からは、淡路島内の9広場が出展し、活動パネルの展示、野菜・物産の販売。人参リンゴジュースカス入りかりんとうの試食、飲食物の販売、紙芝居、竹細工展示など、特色のあるブースを展開し、広場活動の取組を広報するとともに、広場同士の交流はもとより、様々な年齢層と交流を図った。

雨天にもかかわらず、幼児から高齢者まで1800人の参加があり、非常に賑わった。



【会場風景】



【野菜・物産販売】



【パネル展示】



【紙芝居】



【竹細工展示】



【県民交流広場ノボリ】

◆ 成 果

- ・ 「いざなぎの丘元気っ子フェスティバル」と合同開催することにより、幼児から高齢者まで、様々な年齢層と交流を図ることができた。それにより、いろんな絆を大切にし、地域の夢を形にするための様々な活動を展開する広場活動への理解、また、活動実践の報告の場として広く周知・広報することができた。
- ・ 「あわじしま 県民交流広場」のノボリを掲示することにより、島内広場の連帯感の醸成とネットワークの構築を図ることができた。
- ・ ブースを接して展示等を行ったので、相互に活動のノウハウや課題を共有し、持続可能なまちづくり活動についての意見交換を図ることができた。

3 全県連絡協議会及び地域ネットワーク会議

〔設立の趣旨〕

平成 21 年度には、県民交流広場の実施地区が全校区の過半数となり、地域を越えた交流に対する機運が高まってきたことから、県民局ごとにすべての広場が参画し、広場運営の相談、情報交換ができる「地域ネットワーク会議」を設置するとともに、その代表者が参集して、成果の共有や共通課題の検討、広場全体の交流の場づくりを進める「全県連絡協議会」を設置しました。

なお、「地域コミュニティ・アワード」は、全県連絡協議会の企画、協議に基づき、全県レベルで広場が相互に活動のノウハウや課題を共有し、意欲を高める交流の場づくりとして実施しています。

〔全県連絡協議会の実施状況〕

開催日・場 所	内 容
平成 22 年 5 月 26 日 神戸市教育会館	《平成 22 年度第 1 回全県連絡協議会》 地域コミュニティ活性化のための取組事例集の発行にあたり、内容について意見交換を行った。 あわせて、地域コミュニティ・アワード 2010 の意見交換を行った。
平成 22 年 9 月 17 日 県立嬉野台生涯教育センター	《平成 22 年度第 2 回全県連絡協議会》 全県連絡協議会の委員 0B 等に引き続き、広域的な広場活動の支援に関わっていただくための「県民交流広場応援団」を設置。 地域コミュニティ・アワード 2010 の開催にあたり、プログラムや出展内容等について協議・検討を行った。
平成 22 年 11 月 7 日 県立嬉野台生涯教育センター	《地域コミュニティ・アワード 2010》 第 1 章及び第 2 章参照
平成 23 年 2 月 10 日 県立嬉野台生涯教育センター	《平成 22 年度第 3 回全県連絡協議会》 地域コミュニティ・アワード 2010 の成果や課題について意見交換を行い、今後の県民交流広場の展開について協議を行った。 コミュニティ・アワード 2011（神戸市内開催）の開催にあたり、代表世話人を神戸市八多地区の岡田孝久氏とし、引き続き広場活動の支援にご協力頂くこととした。

◆ 22年度 地域ネットワーク会議の開催状況

県民局名・日時	場 所 ・ 主 催	テーマ ・ 概 要
神戸 2月20日(日) 10:00~16:00	【場所】神戸クリスタルタワー 【主催】神戸県民局	《神戸地域県民交流広場ネットワーク交流会》 【テーマ】地域活動のさらなる飛躍に向けて 【概要】 ・事例発表：3事例（西区・井吹東、北区・北五葉、神戸生活創造センター等） ・グループワーク：4テーマ（人材・活動・財源・活動の広がりとおきあがりに向けて） ・参加者：県民交流広場実施地区68人/42地区、県・市関係者12人
阪神南 2月25日(金) 13:30~15:30	【場所】尼崎市立労働センター 【主催】阪神南県民局	《阪神南地域県民交流広場ネットワーク交流会》 【趣 旨】現在、阪神南地域で県民交流広場事業を展開している72広場の関係者が一堂に会し、今後の広場運営にかかる情報交換や広場同士のつながりに役立つことを期待し開催した。 【内 容】尼崎市5か所、西宮市2か所、芦屋市2か所の特徴ある活動をパワーポイント等を使って、事例発表をし、各発表団体の詳しい活動内容を展示した。最後に、阪神南地域推進委員会会長で、(社)兵庫県子ども会連合会常務理事・事務局長の速水順一郎氏に地域づくりのアドバイスをいただいた。
阪神北 5月12(水) 14:00~16:00	【場所】宝塚市立男女共同参画センター 【主催】阪神北県民局 (広場：18地区参加)	《県民交流広場交流会》 県民交流広場実践事例紹介として、①伊丹市緑丘小学校地区社会福祉協議会、②猪名川町猪名川小学校区まちづくり協議会より取組を報告いただき、交流会を実施。
東播磨 7月23日(金) 13:30~16:00	【場所】兵庫県加古川総合庁舎 【主催】東播磨県民局 (広場：19地区参加)	《東播磨地域ネットワーク会議》 西宮市瓦木・深津地区、神戸市北区八多地区より活動事例の紹介をしていただいた後、コミュニティ応援隊 辻信一様をコーディネーターに意見・情報交換をおこなった。 「他の広場は何してる？どうしてる？」をテーマに、広場の運営にあたるためのノウハウや情報を共有することにより、県民交流広場同士の交流を図った。
北播磨 7月30日(金) 1月31日(月) 両日とも 13:30~16:30	◆第1回(7/30) 【場所】社総合庁舎 【主催】北播磨県民局	《北播磨地域ネットワーク会議》 【テーマ】「県民交流広場に求められるもの」 【講 演】神戸まちづくり研究所理事 野崎隆一氏（テーマに則り基調講演） 【事例発表】姫路・青山地区（人材確保）、加西・富田地区（財源確保） 【意見交換】「人材」「財源」の2分科会に参加者は分かれて、課題と方策について話し合いを実施
	◆第2回(1/31) 【場所】県立嬉野台生涯教育センター 【主催】北播磨県民局	【テーマ】ひろばの交流（まちの子育てひろば、子どもの冒険ひろば、若者ゆうゆう広場、県民交流広場） 【講 演】NPO 法人生涯学習サポート兵庫・指導部長 榎本英樹氏 （子どもに学ぶ子育て術） シチズンシップ共有企画・代表 川中大輔氏 （子ども・若者のための地域づくり） 【意見交換】4つの広場の事例発表を踏まえ、川中氏を進行役として意見交換を実施（ワールドカフェ方式）
中播磨 12月18日(土) 10:00~16:00	【場所】市川町文化センター 【主催】中播磨県民局、中播磨連合自治会、中播磨女性団体連絡協議会他2団体	《中播磨地域活動交流メッセ》 地域団体が先導的な活動を行っている他団体の活動を知り、協働して活動するきっかけをつくり、地域コミュニティの活性化を図ることを目的として開催。 広場：パネル参加 51地区、活動報告 5地区、テントブース 6地区

県民局名・日時	場 所 ・ 主 催	テ ー マ ・ 概 要
西播磨 9月11日(土) 9:30~11:40	【場所】 県立西播磨文化会館 【主催】 西播磨県民局	《西播磨地域ネットワーク会議》 【テーマ】 ネットワークを活かしたこれからの地域づくり 【概要】 地域コミュニティ・アワード2010 出展地域である「相生市相生地区」と「たつの市新宮地区」からの活動事例発表の後、『ネットワークを活かしたこれからの地域づくり』をテーマに(特)神戸まちづくり研究所事務局長 野崎隆一氏のコーディネートにより、先の2地区のほか、地域活動団体及び行政による「いきいきトーク」を実施した。その中で、ネットワークを形成することにより課題の解決や活動の充実等につながった事例等が紹介された。
但馬 8月6日(金) 14:00~16:00	【場所】 豊岡総合庁舎 【主催】 但馬県民局	《但馬地域ネットワーク会議》 【講演】 「県民交流広場の今後について」 【講師】 鳥取大学特任教授 光多 長温 【ワークショップ】 (テーマ) 県民交流広場を活用した「自分たちのまちづくり」、「交流広場事業の現状と課題」、「今後の広場の展開方策」などについて意見交換を行った。 【出席者】 地域推進委員会 42 団体 48 名 各市町担当者 5 名
丹波 10月31日(日) 11:20~14:10	【場所】 丹波の森公苑 【主宰】 丹波県民局 (財) 丹波の森協会	《丹波地域広域活動組織連絡会議》 講師から特長的な活動事例紹介の他、地区の活動の現状と課題について提案助言を得るとともに、参加広場から自由に意見を発表してもらい意見交換を行った。 また、同日、連絡会議の都市と農村の交流を進める「都市農村交流部会」の意見交換会を行うとともに、各市単位での相互の情報交換、研修会等を行う広域コミュニティ部会で、情報提供等連携を図った。
淡路 7月31日(土) 13:30~	【場所】 淡路文化会館 【主催】 淡路県民局 (広場：10 地区参加)	《県民交流広場等ネットワーク化支援事業》 広場事業実施の10地区が活動内容をパネルとして持ち寄り展示を行った。 あわせて、各地区による活動事例を発表する場を設け、淡路文化会館・生活創造活動専門員による講話や、参加者同士の質疑を行い、相互の理解・交流を深めた。 最後に、「地域コミュニティ・アワード2010」「全県連絡協議会」の淡路地区代表広場を投票により決定した。

〔コミュニティ応援隊とは〕

県民交流広場事業の効果的な活用や、コミュニティの様々な課題解決を応援するため、県が学識者や専門家、モデル地域リーダーらに協力を求めて設置したコミュニティ応援隊（CAT）の中から、地域のニーズに沿った者を派遣します。

特に、県民交流広場を通じたコミュニティづくりにあたっては、地域の気運を盛り上げ、多くの住民の関心と参加を高めることが大切です。それには、プラン検討段階で、住民が集まり、ワイワイガヤガヤと今後のコミュニティのあり方、そのための取り組み、そして広場の整備内容といった意見を出し合っって共有していく「ワークショップ」が効果的です。このワークショップの進行を手伝う専門家も、CATから派遣します。

〔コミュニティ応援隊の申し込みの流れ〕

派遣を求める地域の方は、県民局県民課、文化会館、消費生活センター等（県民局圏域によって窓口が異なります）に申し込みします。

窓口機関は、CAT登録者（アドバイザーリスト）を示しながら、地域のニーズにふさわしいアドバイザーを助言し、希望にもとづいて双方をつなぎます。

コミュニティ応援隊のメンバーが、例えば、こんな課題、こんな悩みの解決をお手伝いします！

- ◎ コミュニティの大切さをみんなに理解してもらいたい！
- ◎ できるだけたくさんの住民に参加してもらって、地域の課題やニーズに即した事業プランをつくりたい！
- ◎ いろいろな意見が出て、県民交流広場の活用方向がまとまらない！
- ◎ 先行して県民交流広場に取り組んだ地域の体験から学びたい！
- ◎ コミュニティのホームページを立ち上げたいので助言がほしい 等々

県民局（県民課、文化会館、消費生活センター等）にお問い合わせください。（P66 参照）



◎あらかじめ登録されたコミュニティ応援隊メンバーの中から、地域の依頼内容にふさわしい講師をご紹介します。



◎講師に依頼内容を伝え、当日の進め方を調整するとともに、日程を調整します。（県民局もお手伝いします）



◎講師を迎え、学習会やワークショップを実施！！
◎簡単なアンケート調査にご協力ください。

〔専門分野、支援・アドバイスできる内容〕

県民交流広場事業の活用や整備後の運営・活動の充実を図るため、例えば次のような支援・アドバイスが考えられます。

	助言・支援の例	アドバイザーの例
事業 活用 支援	体験談披露・地域へのアドバイス： 広場活用の成果、広場の導入・運営で直面した課題と対応方策など（2件）	県民交流広場モデル地域のリーダー
	ワークショップ開催支援： 地域の現状や整備する拠点の活用方法について話し合う、ワークショップの企画助言・進行支援など（2件）	ワークショップの進行ノウハウを持った者
	コミュニティの重要性提起、他地域の事例紹介： 地域主催の学習会やフォーラムの講演・助言など（26件）	研究者・実践家など
運営 ・ 活動 支援	地域の情報化支援： ホームページ開設、SNS活用方法など（2件）	各分野の専門家、 団体・NPOリー ダーなど
	NPOとの連携支援： 協働事業の検討・提案づくりなど（2件）	
	コミュニティビジネス支援： 起業ノウハウ・運営方法など（1件）	
	地域人材の確保支援： 地域通貨導入、人材養成の方策など（5件）	
	各種地域課題解決： 防犯、子育て、食・特産品開発、防災、文化、福祉、まちづくり、環境等 各分野の活動充実など（30件）	

※ 22年度のコミュニティ応援隊の派遣は70件。その内訳を（ ）書きで記載しています。

〔ワークショップのすすめ〕

県民交流広場のプランづくりをはじめ、コミュニティづくり・まちづくりの分野で、地域の「思いを共有」し、「合意形成」を図っていくためには、ワークショップという手法が効果的です。

モデル地域においても、「多くの住民が広く意見を出し合い、思いを共有するためにはワークショップで、ワイワイ意見を出し合うのが一番良い。やるぞという機運づくりにもなった」という意見が多く聞かれました。

ワークショップとは、講義や講演など一方的な知識の伝達ではなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったりつくり出したりする、双方向の学びと創造のスタイルです。

県民交流広場の事業プランをまとめたり、どのような地域にしていくかを住民みんなで話し合うため、ワークショップの開催をおすすめします。

コミュニティ応援隊には、ワークショップの運営ノウハウを持つ者（ファシリテーター）が数多く参加しています。

〔経費の負担〕

派遣目的	謝 金	交通費
交流広場支援	県負担(3万円)	地域負担(実費相当額)
分野別学習支援		

〔注意事項〕

- 1 交流広場支援は、1地域年1件、分野別学習支援は、同一申請主体年2件の派遣が県負担の対象です。
- 2 県民交流広場交付決定後の謝金・旅費は、広場の活動費助成の対象となり、地域負担となります。
- 3 予算に限りがあるため、県が謝金を負担できないこともあります。
- 4 消費生活センター・地域生活創造情報プラザへのグループ登録により、会場提供等の支援もあります。

〔申込先・お問い合わせ先〕

地 域	県民交流広場事業全般の窓口	直通電話番号	コミュニティ応援隊の窓口	直通電話番号
神 戸	神戸県民局県民課	078-361-8578	神戸県民局県民課	078-361-8543
阪神南	阪神南県民局県民課	06-6481-4397		
阪神北	阪神北県民局県民課	0797-83-3136		
東播磨	東播磨県民局県民課	079-421-9093	東播磨県民局県民課	079-421-9093
北播磨	北播磨県民局県民課	0795-42-9513	嬉野台生涯教育センター	0795-44-0711
中播磨	中播磨県民局県民課	079-281-9196	中播磨県民局中播磨消費生活創造センター	079-281-9601
西播磨	西播磨県民局県民協働課	0791-58-2100	西播磨文化会館	0791-75-3663
但 馬	但馬県民局県民運動課	0796-26-3645	但馬文教府	0796-22-4407
丹 波	丹波県民局県民課 (丹波の森公苑活動支援部)	0795-72-5168	丹波の森公苑	0795-72-2127
淡 路	淡路県民局県民課	0799-26-2043	淡路文化会館	0799-85-1391
全 県	県庁県民生活課	078-362-4000	県庁県民生活課	078-362-4000



お電話をお待ちしています！



県民交流広場事業に関わられる方にとって、事業提案や活動を行っていくにあたって必要となる情報をできるだけ多く知ってもらい、効果的な活動につなげていただくために、「県民交流広場公式ホームページ（<http://www.hyogo.kouryu-hiroba.jp>）」を開設しています。

ホームページでは、イベント情報・ニュース・助成情報等の新着情報をはじめとして、次のような形で情報を発信しています。ぜひ、ご活用ください。

《 「県民交流広場公式ホームページ」のトップページ 》



イベント情報、ニュース、助成情報等を随時お知らせしています。

県民交流広場事業の実施にあたって参考となる情報を掲載しています。

県民交流広場実施地区を紹介しています。

コミュニティ応援隊の派遣に関する情報を掲載しています。